



廃止された機能

BlueXP classification

NetApp
June 14, 2024

目次

廃止された機能	1
BlueXPの分類機能の廃止	1
BlueXPの分類に関する廃止措置の導入	2
スキャンデータの非推奨化	10
データの廃止を管理する	33

廃止された機能

BlueXPの分類機能の廃止

BlueXPの分類は、BlueXPの中核機能として追加料金なしで利用できます。すべてのお客様が利用できるBlueXPのコア機能にBlueXPの分類を含めることで、NetAppの主要機能を使用して、カスタマイズされたデータ管理を利用できるようになります。

一部の機能は、BlueXPコアバージョン1.31以降で廃止され、旧バージョン1.30以前で引き続きサポートされます。

サポートされているデータソース

データソース	旧バージョン1.30以前	BlueXPコアバージョン1.31以降
Cloud Volumes ONTAP（AWS、Azure、GCPに導入）	はい。	はい。
オンプレミスのONTAPクラスタ	はい。	はい。
StorageGRID	はい。	いいえ
Azure NetApp Filesの特長	はい。	はい。
ONTAP対応のAmazon FSX	はい。	はい。
Google Cloud NetAppボリューム	はい。	はい。
Cloud Volumes Service for Google Cloud	はい。	はい。
データベース	はい。	はい。
Amazon S3	はい。	いいえ
Google クラウドストレージ	はい。	いいえ
OneDrive	はい。	いいえ
SharePoint Online	はい。	いいえ
SharePointオンプレミス (SharePoint Server)	はい。	いいえ
Googleドライブ	はい。	いいえ

コンプライアンス機能

フィーチャー（Feature）	旧バージョン1.30以前	BlueXPコアバージョン1.31以降
個人識別情報（PII）の識別	はい。	はい。
機密性の高い個人情報の特定	はい。	はい。
データサブジェクトアクセス要求への応答（dsar）	はい。	はい。
特定された「個人データ」のカスタムリストを作成する	はい。	いいえ

フィーチャー（Feature）	旧バージョン1.30以前	BlueXPコアバージョン1.31以降
ファイルに特定のPIIが含まれている場合は、電子メールでユーザーに通知します。（この条件を定義するには、"ポリシー".）	はい。	いいえ
ディレクトリレベルのフィルタを使用する	はい。	はい。
ディレクトリレベルのPII分析を使用する	はい。	いいえ

データ管理機能

フィーチャー（Feature）	旧バージョン1.30以前	BlueXPコアバージョン1.31以降
ソースファイルの移動、コピー、削除	はい。	いいえ
ステータスタグを使用したデータの分類	はい。	いいえ
AIPラベルを使用したデータの分類	はい。	いいえ
ユーザーへのファイルの割り当て	はい。	いいえ
オンデマンドでデータを再スキャン	はい。	いいえ
カスタム分類子の作成	はい。	いいえ
ディレクトリをスキャン対象から除外	はい。	はい。
ファイル内の名前を検索します	はい。	はい。
調査からNFSへのデータのエクスポート	はい。	いいえ
調査からCSVにデータをエクスポート	はい。	はい。
複数のスキャナをサポート	はい。	いいえ
Active Directory を統合します	はい。	はい。
権限分析とフィルタの使用	はい。	はい。
ファイルカードを使用する	はい。	はい。
ヒートマップを使用する	はい。	はい。
ダッシュボードとファイルカードでアクションを使用する	はい。	いいえ
ファイルアクセス監査ログを使用する	はい。	いいえ
[Configuration]ページからファイルアクセスを有効にする	はい。	いいえ
特定の事前定義ポリシーを使用する	はい。	いいえ

BlueXPの分類に関する廃止措置の導入

インターネットにアクセスしない大規模構成の場合は、複数のホストにBlueXP分類をインストールする

インターネットアクセスがないオンプレミスサイト（_private mode_とも呼ばれます）の複数のホストにBlueXP分類をインストールするには、いくつかの手順を実行します。

このタイプのインストールは、セキュアなサイトに最適です。

インターネットにアクセスできないサイトのペタバイト規模のデータをスキャンする非常に大規模な構成では、複数のホストを追加して処理能力を高めることができます。複数のホストシステムを使用する場合、プライマリシステムは `_Managernode_name` と呼ばれ、追加の処理能力を提供する追加システムは `_Scanner Node_` と呼ばれます。

オフライン環境の複数のオンプレミスホストにBlueXP分類ソフトウェアをインストールする場合は、次の手順に従います。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

必要なもの

- ManagerノードとスキャナノードのすべてのLinuxシステムがホストの要件を満たしていることを確認します。
- 前提条件となる2つのソフトウェアパッケージ（Docker EngineまたはPodman、およびPython 3）がインストールされていることを確認します。
- Linux システムに対する root 権限があることを確認してください。
- オフライン環境が必要な権限と接続を満たしていることを確認します。
- 使用するスキャナノードホストの IP アドレスを確認しておく必要があります。
- すべてのホストで次のポートとプロトコルを有効にする必要があります。

ポート	プロトコル	説明
2377	TCP	クラスタ管理通信
7946	tcp、udp です	ノード間通信
4789	UDP	オーバーレイネットワークトラフィック
50	ESP	暗号化された IPsec オーバーレイネットワーク（ESP）トラフィック
111	tcp、udp です	ホスト間でファイルを共有するための NFS サーバ（各スキャナノードからマネージャノードに必要）
2049	tcp、udp です	ホスト間でファイルを共有するための NFS サーバ（各スキャナノードからマネージャノードに必要）

手順

1. から手順 1~8 を実行します **"シングルホストインストール"** マネージャノード。
2. 手順 9 に示すように、インストーラからプロンプトが表示されたら、一連のプロンプトに必要な値を入力するか、必要なパラメータをコマンドライン引数としてインストーラに指定することができます。

シングルホストのインストールで使用できる変数に加えて、新しいオプション `* -n <Node_IP> *` を使用してスキャナノードの IP アドレスを指定します。複数のノードの IP をカンマで区切って指定します。

たとえば、次のコマンドは3つのスキャナノードを追加します。

```
sudo ./install.sh -a <account_id> -c <client_id> -t <user_token> --host
```

```
<ds_host> --manager-host <cm_host> -n <node_ip1>,<node_ip2>,<node_ip3> --no-proxy --darksite
```

3. マネージャノードのインストールが完了する前に、スキャナノードに必要なインストールコマンドがダイアログに表示されます。コマンドをコピーします（例：`sudo ./node_install.sh -m 10.11.12.13 -t ABCDEF-1-3u69m1-1s35212`）を入力し、テキストファイルに保存します。
4. 各 * スキャナノードホストで：
 - a. データセンシングインストーラファイル（* `cc_onpm_installer.tar.gz` *）をホストマシンにコピーします。
 - b. インストーラファイルを解凍します。
 - c. 手順 3 でコピーしたコマンドを貼り付けて実行します。

すべてのスキャナノードでインストールが完了し、それらのノードがマネージャノードに参加したら、マネージャノードのインストールも完了します。

結果

BlueXP分類インストーラがパッケージのインストールを完了し、インストールを登録します。インストールには 15 ~ 25 分かかる場合があります。

次のステップ

設定ページからローカルを選択できます ["オンプレミスの ONTAP クラスタ"](#) および local です ["データベース"](#) をスキャンします。

既存の環境にスキャナノードを追加する

インターネットにアクセスできるLinuxホストの既存の環境にスキャナノードを追加できません。

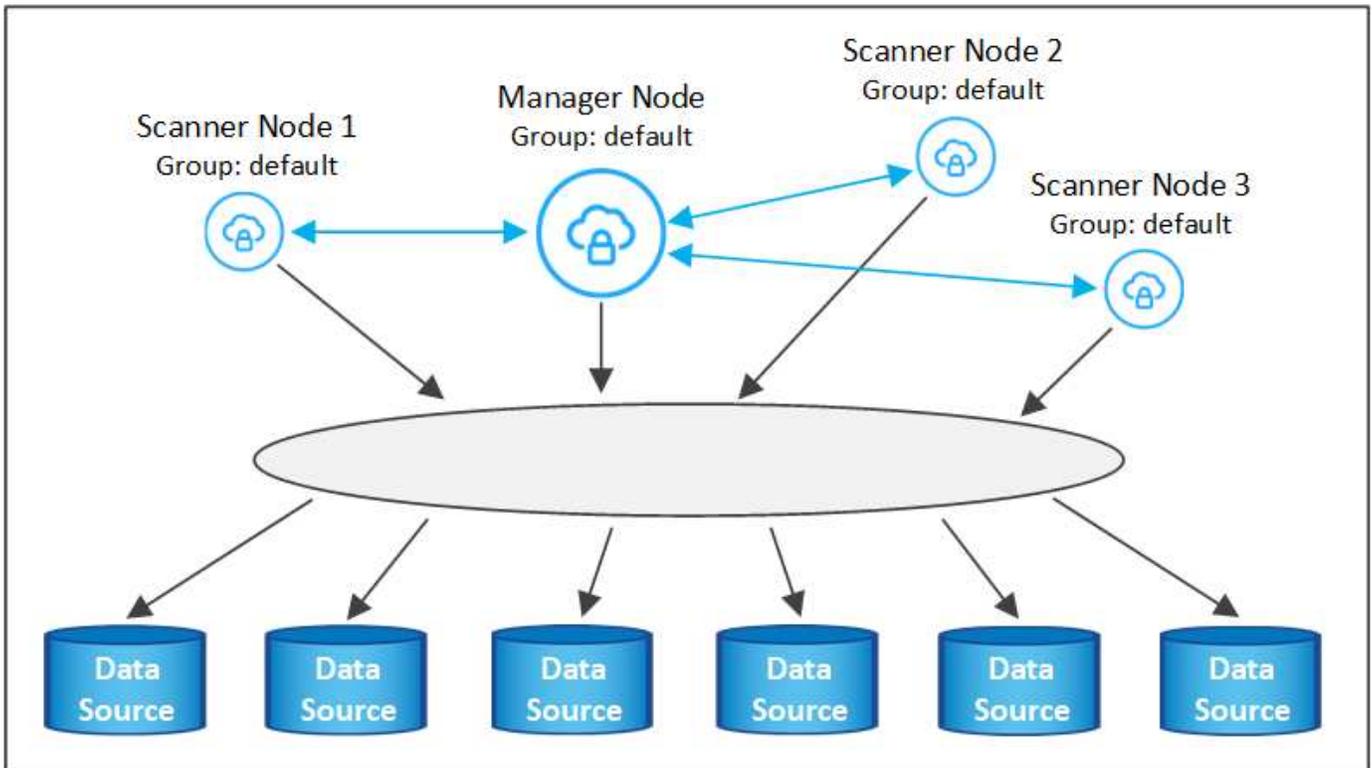
データソースのスキャンに必要なスキャン処理能力が増えた場合は、スキャナノードを追加することができます。マネージャノードをインストールした直後にスキャナノードを追加することも、後でスキャナノードを追加することもできます。たとえば、1つのデータソースのデータ量が6カ月後に2倍または3倍になったことがわかった場合は、データスキャンに役立つ新しいスキャナノードを追加できます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

スキャナノードを追加するには、次の2つの方法があります。

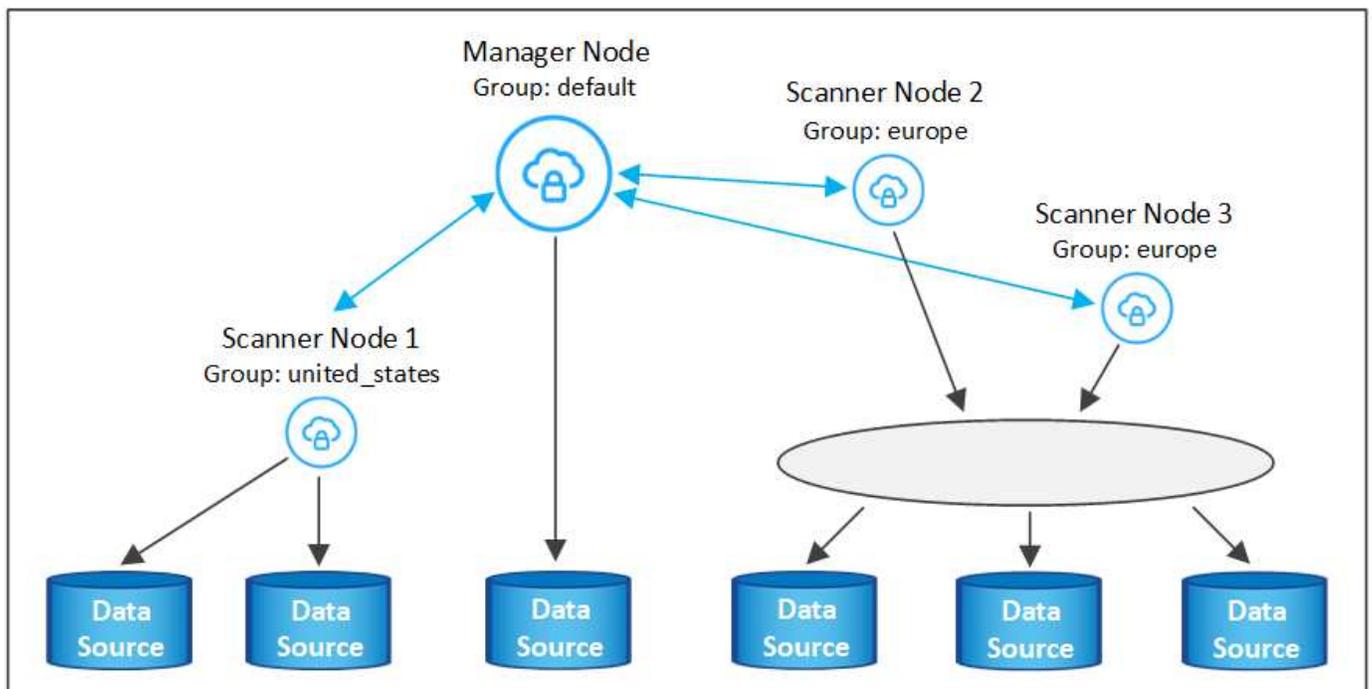
- すべてのデータソースのスキャンに使用するノードを追加します
- 特定のデータソース、または特定のデータソースグループ（通常は場所に基づく）のスキャンに役立つノードを追加する

デフォルトでは、追加した新しいスキャナノードはすべて、スキャンリソースの一般的なプールに追加されます。これを「デフォルトスキャナグループ」と呼びます。次の図では、6つすべてのデータソースからすべてのデータをスキャンする「デフォルト」グループに、1つのManagerノードと3つのスキャナノードがあります。



スキャナードがデータソースに物理的に近いデータソースでスキャンするデータソースがある場合は、スキャナードまたはスキャナードのグループを定義して、特定のデータソースまたはデータソースのグループをスキャンできます。次の図では、1つのマネージャーノードと3つのスキャナーノードがあります。

- Managerノードは「デフォルト」グループにあり、1つのデータソースをスキャンしています
- スキャナード1は「United States」グループに属し、2つのデータソースをスキャンしています
- スキャナード2および3は「ヨーロッパ」グループに属し、3つのデータソースのスキャンタスクを共有します



BlueXPの分類スキャナグループは、データが格納される個別の地理的領域として定義できます。BlueXP分類スキャナノードは世界中に複数導入でき、ノードごとにスキャナグループを選択できます。このようにすると、各スキャナノードは最も近いデータをスキャンします。スキャナノードがデータに近いほど、データのスキャン時のネットワークレイテンシができるだけ低減されるため、データの読み取り速度が向上します。

BlueXPの分類に追加するスキャナグループとその名前を選択できます。BlueXPの分類では、「Europe」という名前のスキャナグループにマッピングされたノードがヨーロッパに導入されるわけではありません。

追加のBlueXP分類スキャナノードをインストールするには、次の手順を実行します。

1. スキャナノードとして機能するLinuxホストシステムを準備します
2. これらのLinuxシステムにデータセンソフトウェアをダウンロードします
3. Managerノードでコマンドを実行して、スキャナノードを特定します
4. 次の手順に従って、スキャナノードにソフトウェアを展開します（また、特定のスキャナノードに対してオプションで「スキャナグループ」を定義します）。
5. スキャナグループを定義した場合は、Managerノードで次の手順を実行します。
 - a. 「Working_environment To _scanner_group_config.yml」ファイルを開き、各スキャナグループでスキャンされる作業環境を定義します
 - b. 次のスクリプトを実行して、このマッピング情報をすべてのスキャナノードに登録します。
`update_we_scanner_group_from_config_file.sh`

必要なもの

- スキャナノード用のすべてのLinuxシステムがホスト要件を満たしていることを確認します。
- システムに前提条件となる2つのソフトウェアパッケージ（Docker EngineまたはPodman、およびPython 3）がインストールされていることを確認します。
- Linux システムに対する root 権限があることを確認してください。
- 環境が必要な権限と接続を満たしていることを確認します。
- 追加するスキャナノードホストのIPアドレスを確認しておく必要があります。
- BlueXP Classification ManagerノードのホストシステムのIPアドレスが必要です
- コネクタシステムのIPアドレスまたはホスト名、ネットアップアカウントID、コネクタクライアントID、およびユーザアクセストークンが必要です。スキャナグループを使用する場合は、アカウントの各データソースの作業環境IDを確認しておく必要があります。この情報を取得するには、以下の*必要条件ステップ*を参照してください。
- すべてのホストで次のポートとプロトコルを有効にする必要があります。

ポート	プロトコル	説明
2377	TCP	クラスタ管理通信
7946	tcp、udp です	ノード間通信
4789	UDP	オーバーレイネットワークトラフィック
50	ESP	暗号化された IPsec オーバーレイネットワーク（ESP）トラフィック

ポート	プロトコル	説明
111	tcp、udp です	ホスト間でファイルを共有するための NFS サーバ（各スキャナノードからマネージャノードに必要）
2049	tcp、udp です	ホスト間でファイルを共有するための NFS サーバ（各スキャナノードからマネージャノードに必要）

- 使用するポート firewalld BlueXP分類マシンでは、BlueXP分類をインストールする前に有効にすることを推奨します。次のコマンドを実行して設定します firewalld BlueXPと互換性があることを確認します。

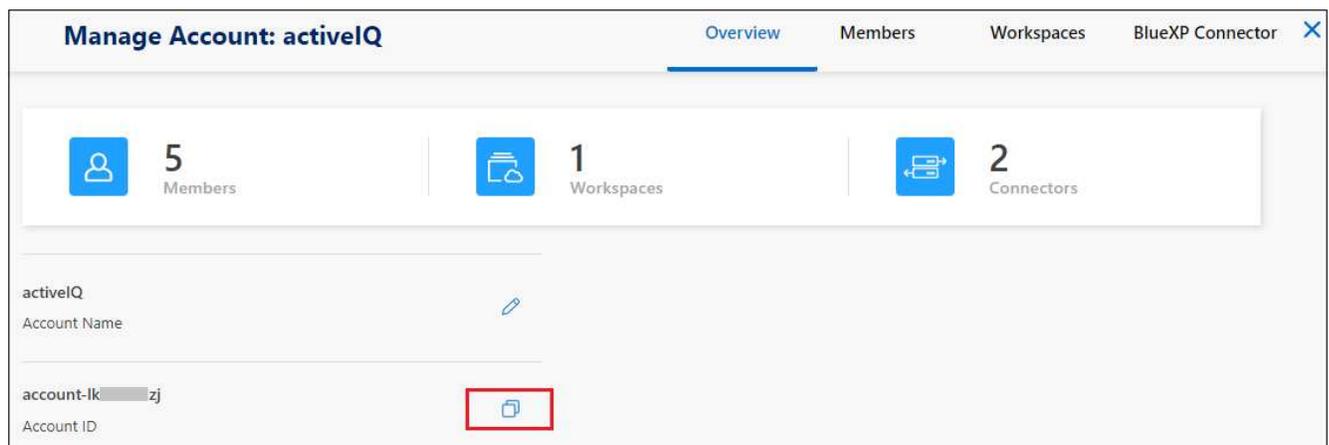
```
firewall-cmd --permanent --add-service=http
firewall-cmd --permanent --add-service=https
firewall-cmd --permanent --add-port=80/tcp
firewall-cmd --permanent --add-port=8080/tcp
firewall-cmd --permanent --add-port=443/tcp
firewall-cmd --permanent --add-port=2377/tcp
firewall-cmd --permanent --add-port=7946/udp
firewall-cmd --permanent --add-port=7946/tcp
firewall-cmd --permanent --add-port=4789/udp
firewall-cmd --reload
```

を有効または更新するたびに、DockerまたはPodmanを再起動する必要があることに注意してください。
firewalld 設定：

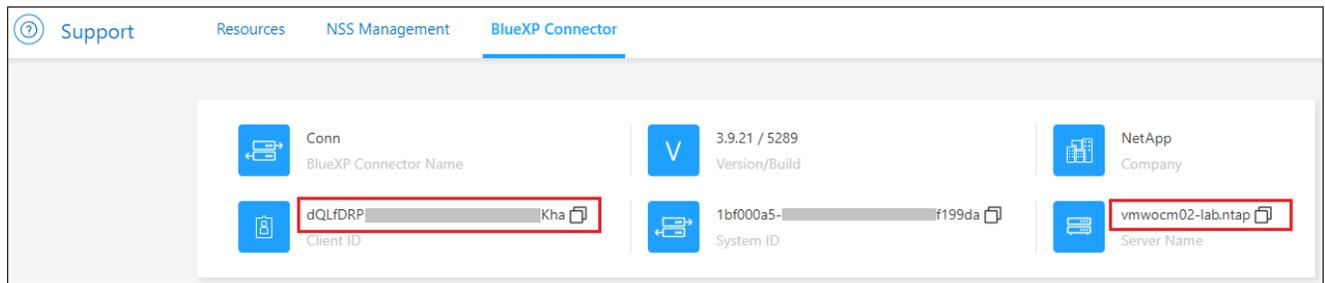
事前に必要な手順

次の手順に従って、スキャナノードの追加に必要なネットアップアカウントID、コネクタクライアントID、コネクタサーバ名、およびユーザアクセストークンを取得します。

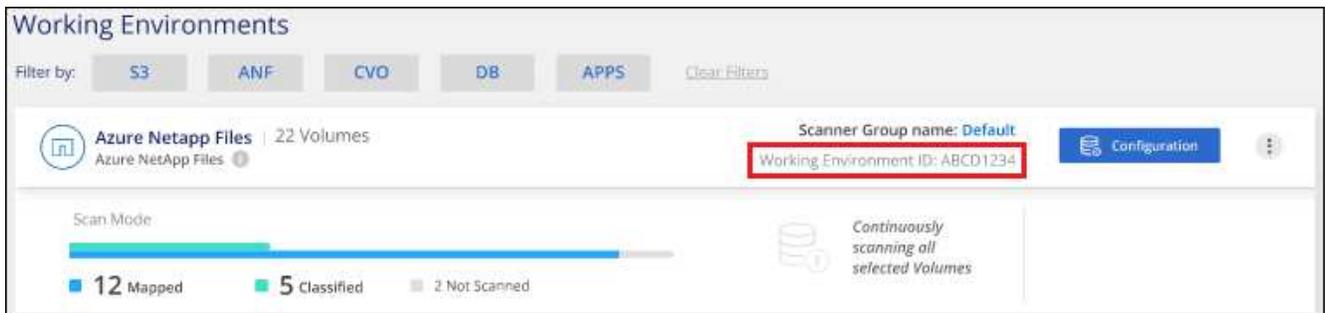
1. BlueXPのメニューバーで、*アカウント>アカウントの管理*をクリックします。



2. _アカウントID_をコピーします。
3. BlueXPメニューバーで、[ヘルプ]>[サポート]>[BlueXPコネクタ*]をクリックします。

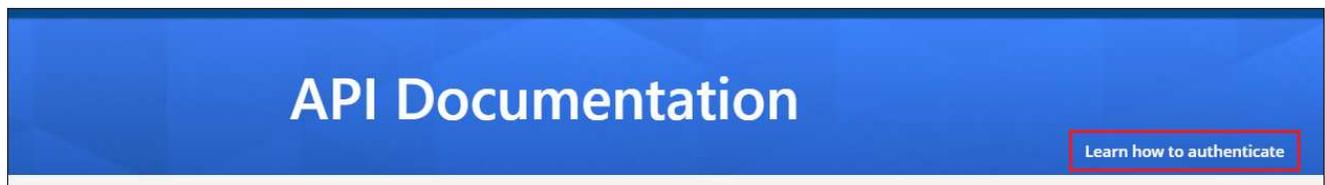


- Connector_Client ID_と_サーバ名_をコピーします。
- スキャナグループを使用する場合は、BlueXP分類の[設定]タブで、スキャナグループに追加する各作業環境の作業環境IDをコピーします。



ページに表示されるWorking Environment IDのスクリーンショット。"]

- にアクセスします "APIドキュメント開発者ハブ" [Learn how to authenticate(認証方法を確認する)]をクリック



- 「ユーザー名」と「パスワード」パラメータのアカウント管理者のユーザー名とパスワードを使用して、認証手順に従ってください。
- 次に、応答から_access token_をコピーします。

手順

- BlueXP Classification Managerノードで、スクリプト「add_scanner_node.sh」を実行します。たとえば、次のコマンドはスキャナノードを2つ追加します。

```
sudo ./add_scanner_node.sh -a <account_id> -c <client_id> -m <cm_host> -h
<ds_manager_ip> -n <node_private_ip_1,node_private_ip_2> -t <user_token>
```

変数値：

- _account_id_ = ネットアップアカウント ID
- client_id=コネクタクライアントID (前提条件ステップでコピーしたクライアントIDに接尾辞「clients」を追加)
- cm_host=コネクタシステムのIPアドレスまたはホスト名

- `DS_manager_IP`= BlueXP Classification ManagerノードシステムのプライベートIPアドレス
 - `node_private_IP`= BlueXP分類スキャナノードシステムのIPアドレス（複数のスキャナノードIPはカンマで区切ります）
 - `user_token`= JWTユーザーアクセストークン
2. `add_scanner_node`スクリプトが完了する前に、スキャナノードに必要なインストールコマンドを示すダイアログが表示されます。コマンドをコピーします（例：`sudo ./node_install.sh -m 10.11.12.13 -t ABCDEF1s35212 -u red95467j`）を入力し、テキストファイルに保存します。
 3. 各* スキャナノードホストで：
 - a. データセンシブインストーラファイル(`DATASENSE-installer -<version> .tar.gz`)をホストマシンにコピーします(`scp`などの方法を使用)。
 - b. インストーラファイルを解凍します。
 - c. 手順2でコピーしたコマンドを貼り付けて実行します。
 - d. スキャナノードを「スキャナグループ」に追加する場合は、パラメータ`*-r <scanner_group_name>*`をコマンドに追加します。それ以外の場合は、スキャナノードが「デフォルト」グループに追加されます。

すべてのスキャナノードでインストールが完了し、それらのノードがマネージャノードに参加したら、「`add_scanner_node.sh`」スクリプトも終了します。インストールには10~20分かかることがあります。
 4. スキャナグループにスキャナノードを追加した場合は、マネージャノードに戻り、次の2つのタスクを実行します。

- a. 「`/opt/netapp/config/custom_configuration/working_environment_to_scanner_group_config.yml`」ファイルを開き、スキャナグループが特定の作業環境をスキャンするマッピングを入力します。データソースごとに`_Working Environment ID_`が必要になります。たとえば、次のエントリでは、2つの作業環境を「ヨーロッパ」スキャナグループに、2つを「United States」スキャナグループに追加します。

```
scanner_groups:
  europe:
    working_environments:
      - "working_environment_id1"
      - "working_environment_id2"
  united_states:
    working_environments:
      - "working_environment_id3"
      - "working_environment_id4"
```

リストに追加されていない作業環境は、「デフォルト」グループによってスキャンされます。「デフォルト」グループには、少なくとも1つのマネージャまたはスキャナノードが必要です。

- b. 次のスクリプトを実行して、このマッピング情報をすべてのスキャナノードに登録します。
`/opt/netapp/Datasense/tools/update_we_scanner_group_from_config_file.sh`

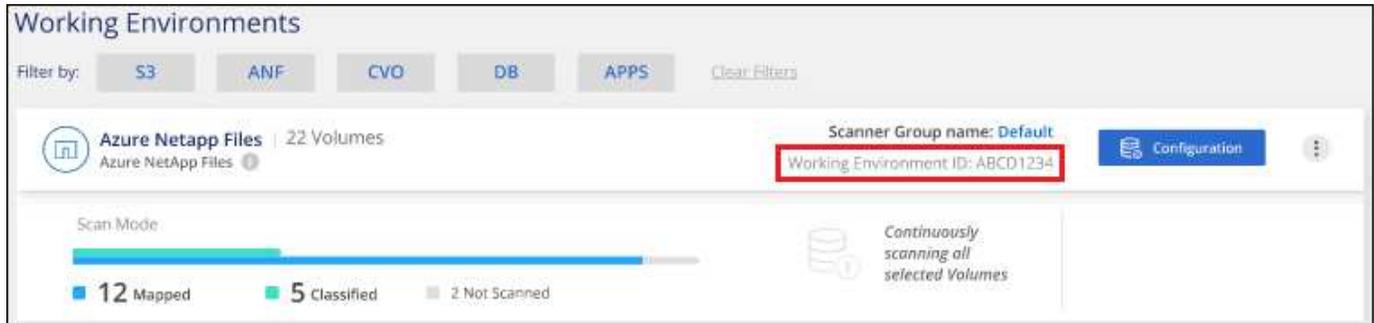
結果

BlueXPの分類は、ManagerノードとScannerノードで設定され、すべてのデータソースがスキャンされます。

次のステップ

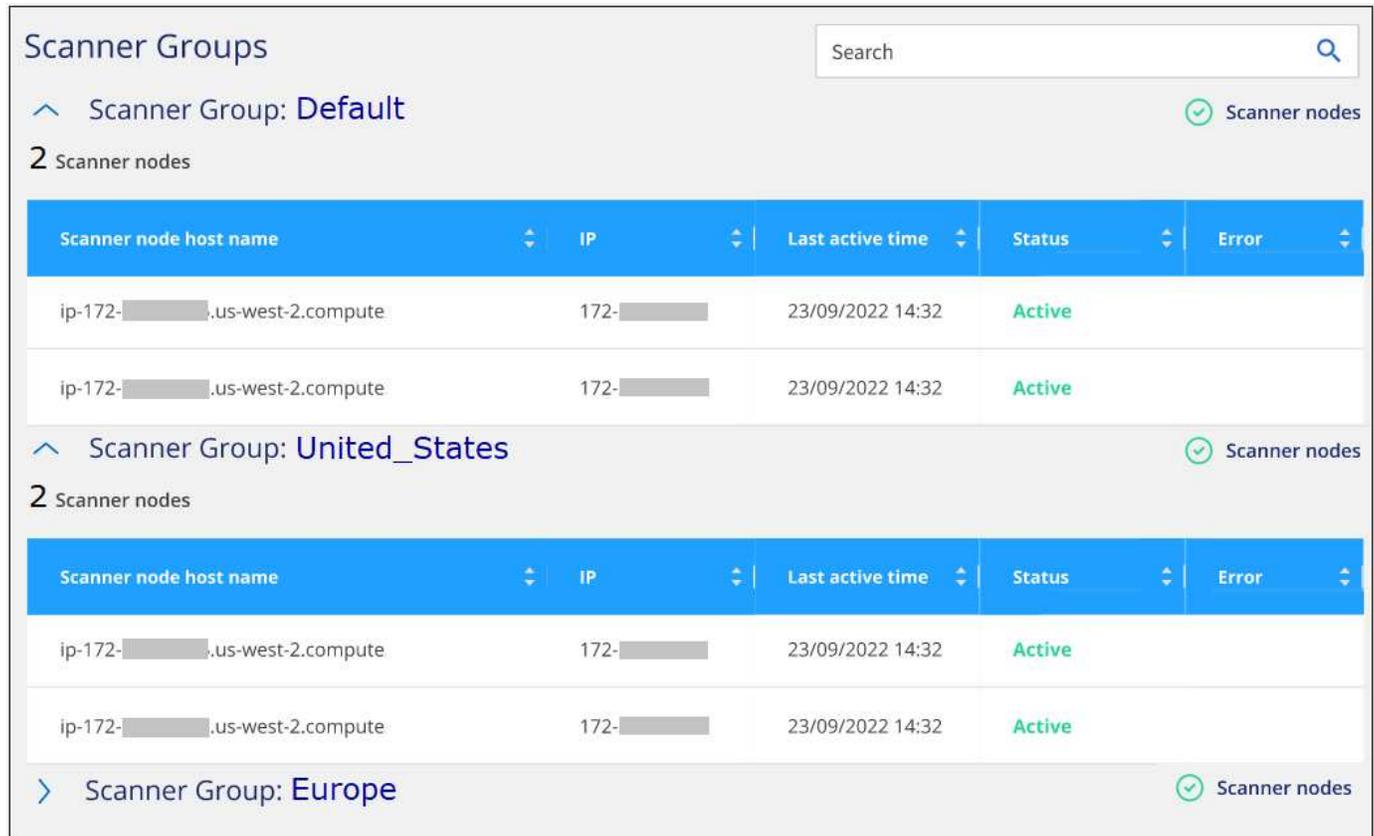
設定ページで、スキャンするデータソースを選択できます（まだ選択していない場合）。スキャナグループを作成した場合は、各データソースがそれぞれのグループのスキャナノードによってスキャンされます。

各作業環境のスキャナグループ名は、設定ページに表示されます。



ページに表示される Working Environment ID のスクリーンショット。"]

また、すべてのスキャナグループのリスト、および[設定]ページの下部にあるグループ内の各スキャナノードのIPアドレスとステータスを表示することもできます。



Scanner node host name	IP	Last active time	Status	Error
Scanner Group: Default Scanner nodes				
2 Scanner nodes				
ip-172-...us-west-2.compute	172-...	23/09/2022 14:32	Active	
ip-172-...us-west-2.compute	172-...	23/09/2022 14:32	Active	
Scanner Group: United_States Scanner nodes				
2 Scanner nodes				
ip-172-...us-west-2.compute	172-...	23/09/2022 14:32	Active	
ip-172-...us-west-2.compute	172-...	23/09/2022 14:32	Active	
Scanner Group: Europe Scanner nodes				

スキャンデータの非推奨化

Amazon S3バケットをスキャン

BlueXPの分類では、Amazon S3バケットをスキャンして、S3オブジェクトストレージ

に格納された個人データと機密データを特定できます。BlueXPの分類では、NetApp解決策用に作成されたバケットかどうかに関係なく、アカウント内の任意のバケットをスキャンできます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

クラウド環境で **S3** の要件を設定します

お使いのクラウド環境がBlueXPの分類要件を満たしていることを確認します。これには、IAMロールの準備やBlueXPの分類からS3への接続の設定などが含まれます。 [すべてのリストを参照してください](#)。

2

BlueXP分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3

S3作業環境でBlueXP分類をアクティブ化します

Amazon S3 作業環境を選択し、 * Enable * をクリックして、必要な権限を含む IAM ロールを選択します。

4

スキャンするバケットを選択します

スキャンするバケットを選択すると、BlueXPの分類によってスキャンが開始されます。

S3 の前提条件の確認

S3 バケットのスキャンに固有の要件を次に示します。

BlueXP分類インスタンス用のIAMロールを設定します

BlueXPの分類には、アカウント内のS3バケットに接続してスキャンするための権限が必要です。以下の権限を含む IAM ロールを設定します。Amazon S3作業環境でBlueXPの分類を有効にすると、IAMロールを選択するように求められます。

```

{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:Get*",
        "s3:List*",
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetPolicyVersion",
        "iam:GetPolicy",
        "iam:ListAttachedRolePolicies"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:iam::*:policy/*",
        "arn:aws:iam::*:role/*"
      ]
    }
  ]
}

```

BlueXP分類からAmazon S3への接続を提供します

BlueXPの分類にはAmazon S3への接続が必要です。この接続を確立する最善の方法は、VPC エンドポイントを介して S3 サービスに接続することです。手順については、を参照してください ["AWS のドキュメント：「Creating a Gateway Endpoint」](#)。

VPCエンドポイントを作成するときは、BlueXP分類インスタンスに対応するリージョン、VPC、およびルーティングテーブルを選択してください。S3 エンドポイントへのトラフィックを有効にする発信 HTTPS ルールを追加するには、セキュリティグループも変更する必要があります。そうしないと、BlueXPの分類からS3サービスに接続できません。

問題が発生した場合は、を参照してください ["AWSのサポートナレッジセンター：ゲートウェイVPCエンドポイントを使用してS3バケットに接続できないのはなぜですか。"](#)

別の方法として、NAT ゲートウェイを使用して接続を提供する方法があります。



インターネット経由で S3 にアクセスするためにプロキシを使用することはできません。

BlueXP分類インスタンスの導入

"BlueXPでBlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

AWSに導入されているコネクタを使用してインスタンスを導入する必要があります。これにより、BlueXPはこのAWSアカウント内のS3バケットを自動的に検出し、Amazon S3作業環境に表示します。

注： S3バケットのスキャン時にオンプレミス環境へのBlueXP分類の導入は現在サポートされていません。

インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

S3作業環境でBlueXP分類をアクティブ化します

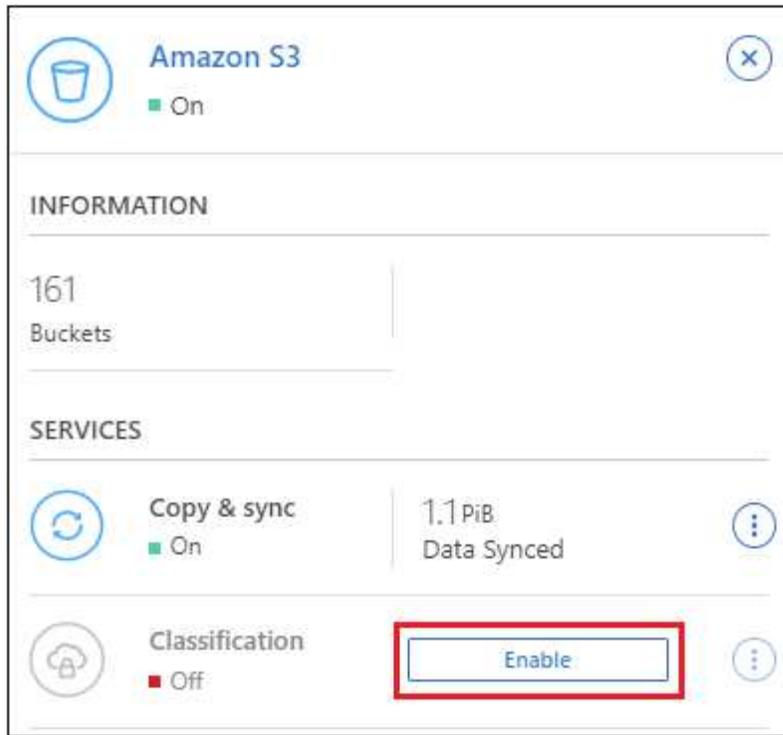
前提条件を確認したら、Amazon S3でBlueXPの分類を有効にします。

手順

1. BlueXPの左ナビゲーションメニューから、*Storage > Canvas *をクリックします。
2. Amazon S3 作業環境を選択します。



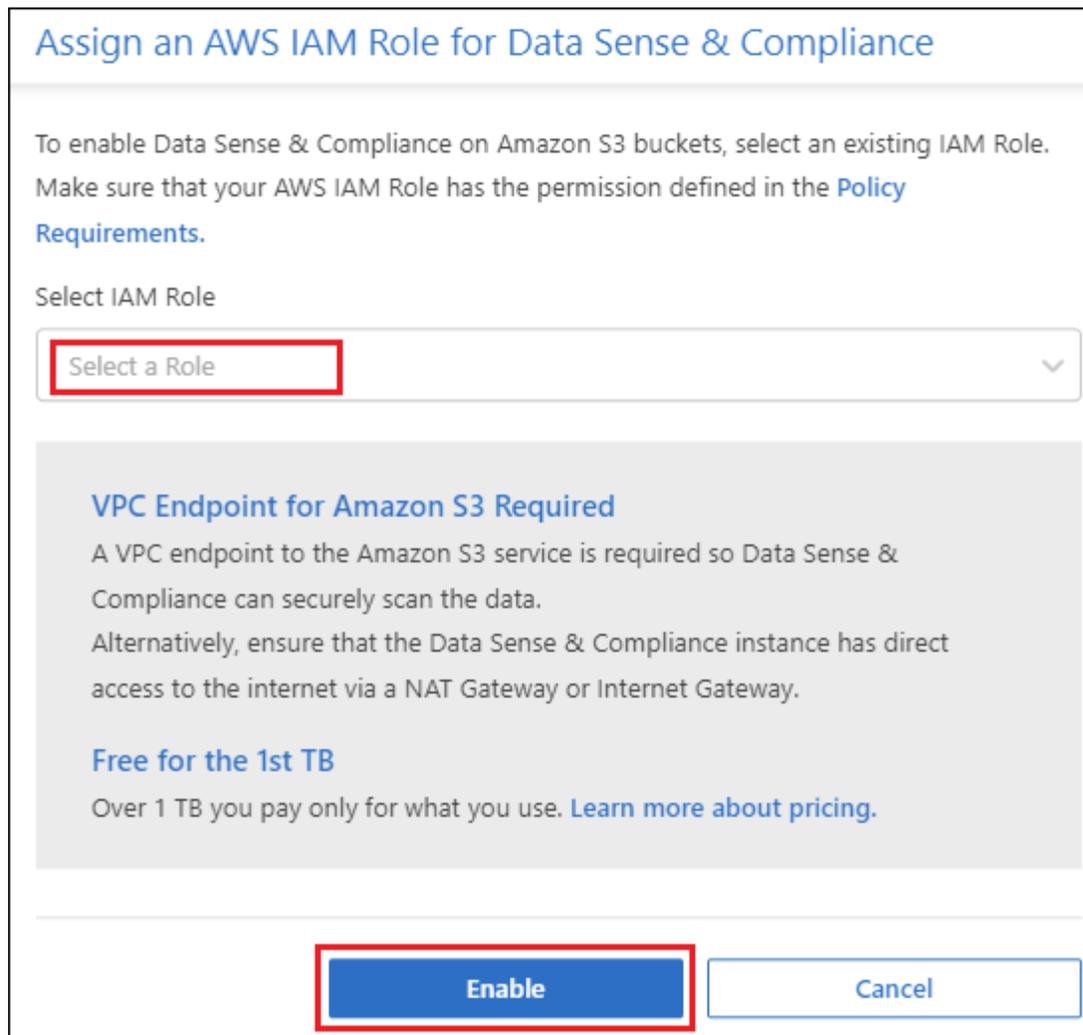
3. 右側の[サービス]ペインで、[分類]の横にある*[有効化]*をクリックします。



パネルでBlueXP分類サービスを有効にする

るスクリーンショット"]

4. プロンプトが表示されたら、を含むBlueXP分類インスタンスにIAMロールを割り当てます [必要な権限](#)。



5. **[Enable]** をクリックします。



また、作業環境のコンプライアンススキャンを有効にすることもできます Configuration ページでクリックします  ボタンをクリックし、*[BlueXP分類のアクティブ化]*を選択します。

結果

BlueXPは、インスタンスにIAMロールを割り当てます。

S3 バケットでの準拠スキャンの有効化と無効化

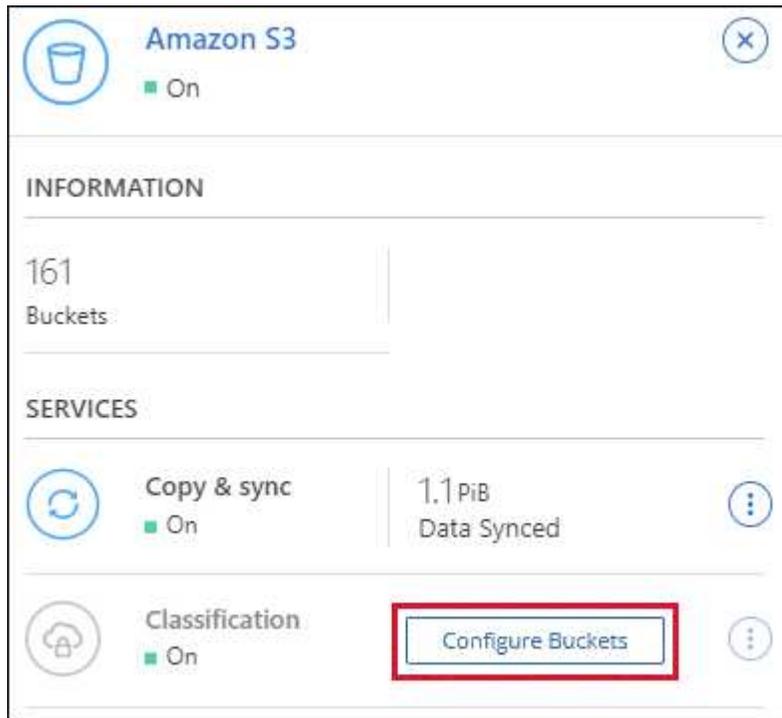
Amazon S3でBlueXPの分類を有効にしたら、次にスキャンするバケットを設定します。

スキャンするS3バケットを含むAWSアカウントでBlueXPを実行している場合、そのバケットが検出され、Amazon S3作業環境で表示されます。

BlueXPに分類することもできます [別々の AWS アカウントにある S3 バケットをスキャンします](#)。

手順

1. Amazon S3 作業環境を選択します。
2. 右側の[Services]ペインで、*[Configure Buckets]*をクリックします。



3. バケットでマッピング専用スキャン、またはマッピングスキャンと分類スキャンを有効にします。

Amazon S3 Configuration			
15/28 Buckets in Scan Scope.			
Scan	Bucket Name	Status	Required Action
Off Map Map & Classify	BucketName1	● Not Scanning	Add Credentials
Off Map Map & Classify	BucketName2	● Continuously Scanning	
Off Map Map & Classify	BucketName3	● Not Scanning	

終了：	手順：
バケットでマッピングのみのスキャンを有効にする	[* マップ *] をクリックします
バケットでフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
バケットに対するスキャンを無効にする	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類で、有効にしたS3バケットのスキャンが開始されます。エラーが発生した場合は、エラーを修正するために必要なアクションとともに、[ステータス]列に表示されます。

追加の AWS アカウントからバケットをスキャンする

別のAWSアカウントにあるS3バケットをスキャンするには、そのアカウントからロールを割り当てて既存のBlueXP分類インスタンスにアクセスします。

手順

1. S3 バケットをスキャンするターゲット AWS アカウントに移動し、* 別の AWS アカウント * を選択して IAM ロールを作成します。

Create role



Select type of trusted entity

 AWS service EC2, Lambda and others	 Another AWS account Belonging to you or 3rd party	 Web identity Cognito or any OpenID provider	 SAML 2.0 federation Your corporate directory
--	---	---	--

Allows entities in other accounts to perform actions in this account. [Learn more](#)

Specify accounts that can use this role

Account ID* ⓘ

- Options**
- Require external ID (Best practice when a third party will assume this role)
 - Require MFA ⓘ

必ず次の手順を実行してください。

- BlueXP分類インスタンスが配置されているアカウントのIDを入力します。
- 最大 CLI / API セッション期間 * を 1 時間から 12 時間に変更し、変更を保存してください。
- BlueXP分類IAMポリシーを適用します。必要な権限があることを確認します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:Get*",
        "s3:List*",
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

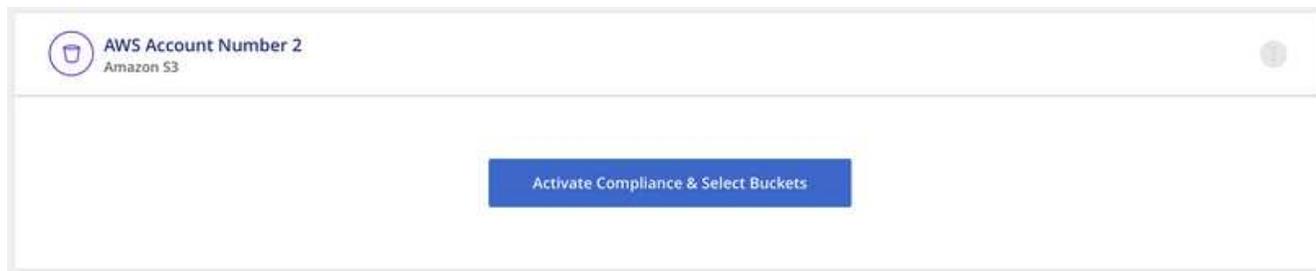
2. BlueXP分類インスタンスが配置されているソースAWSアカウントに移動し、インスタンスに関連付けられているIAMロールを選択します。
 - a. 最大 CLI / API セッション期間 * を 1 時間から 12 時間に変更し、変更を保存してください。
 - b. [* ポリシーの適用 *] をクリックし、[ポリシーの作成 *] をクリックします。
 - c. 「STS : AssumeRole」アクションを含むポリシーを作成し、ターゲットアカウントで作成した口

ールのARNを指定します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "sts:AssumeRole",
      "Resource": "arn:aws:iam::<ADDITIONAL-ACCOUNT-ID>:role/<ADDITIONAL_ROLE_NAME>"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetPolicyVersion",
        "iam:GetPolicy",
        "iam:ListAttachedRolePolicies"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:iam::*:policy/*",
        "arn:aws:iam::*:role/*"
      ]
    }
  ]
}
```

BlueXP分類インスタンスのプロファイルアカウントから、追加のAWSアカウントにアクセスできるようになりました。

3. Amazon S3 Configuration * ページに移動し、新しいAWSアカウントが表示されます。BlueXPの分類によって新しいアカウントの作業環境が同期され、この情報が表示されるまでに数分かかることがあります。



4. [Activate BlueXP classification & Select Buckets]*をクリックし、スキャンするバケットを選択します。

結果

BlueXPの分類で、有効にした新しいS3バケットのスキャンが開始されます。

OneDriveアカウントのスキャン

BlueXP分類を使用して、ユーザーのOneDriveフォルダ内のファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

OneDrive の前提条件を確認します

OneDrive アカウントにログインするための管理者資格情報があることを確認してください。

2

BlueXP分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3

OneDrive アカウントを追加します

Admin ユーザクレデンシャルを使用して、アクセスする OneDrive アカウントにログインし、新しい作業環境として追加します。

4

ユーザを追加して、スキャンのタイプを選択します

スキャンするユーザのリストを OneDrive アカウントから追加し、スキャンのタイプを選択します。一度に最大 100 人のユーザを追加できます。

OneDrive の要件を確認する

BlueXPの分類を有効にする前に、次の前提条件を確認して、サポートされる構成があることを確認してください。

- ユーザのファイルに読み取りアクセスを提供するOneDrive for Businessアカウントの管理者ログインクレデンシャルが必要です。
- OneDriveフォルダをスキャンするすべてのユーザーに対して、電子メールアドレスの行区切りリストが必要です。

BlueXP分類インスタンスの導入

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

BlueXPには次のように分類できます ["クラウドに導入"](#) または ["インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所"](#)。

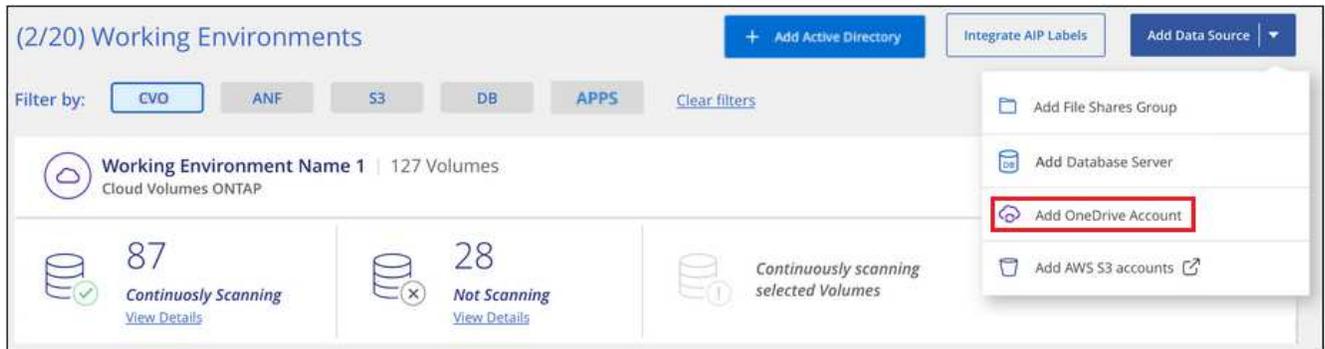
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

OneDrive アカウントを追加します

ユーザファイルが存在する OneDrive アカウントを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、[* データソースの追加 >]、[OneDrive アカウントの追加 *] の順にクリックします。



ボタンをクリックできる [スキャン構成] ページのスクリーンショット。"]

2. [OneDrive アカウントの追加] ダイアログで、[* OneDrive にサインイン] をクリックします。
3. 表示された[Microsoft] ページで、OneDrive アカウントを選択して必要な管理者ユーザとパスワードを入力し、*[同意する]* をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

OneDrive アカウントが作業環境の一覧に追加されます。

OneDrive ユーザーをコンプライアンススキャンに追加する

個々のOneDriveユーザまたはすべてのOneDriveユーザを追加して、BlueXPの分類によってファイルがスキャンされるようにすることができます。

手順

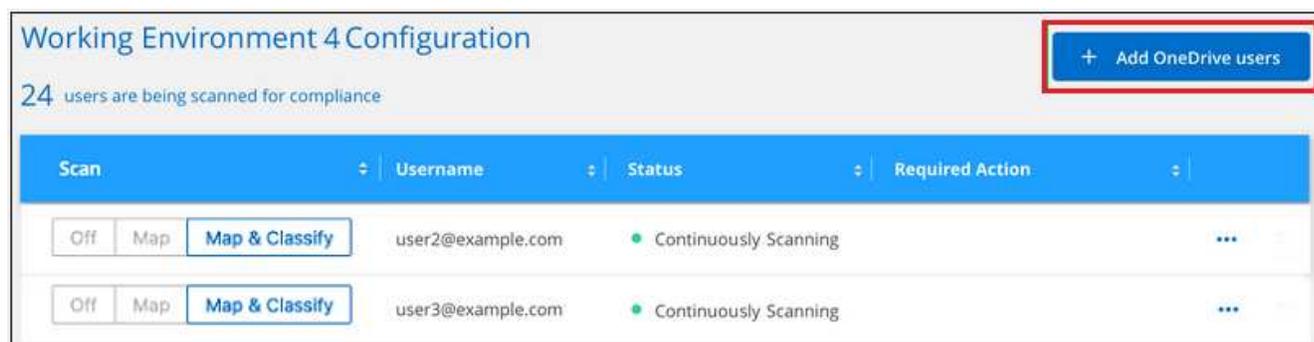
1. [Configuration] ページで、OneDrive アカウントの [* 構成 *] ボタンをクリックします。



2. この OneDrive アカウントに初めてユーザーを追加する場合は、[* 最初の OneDrive ユーザーを追加する *] をクリックします。

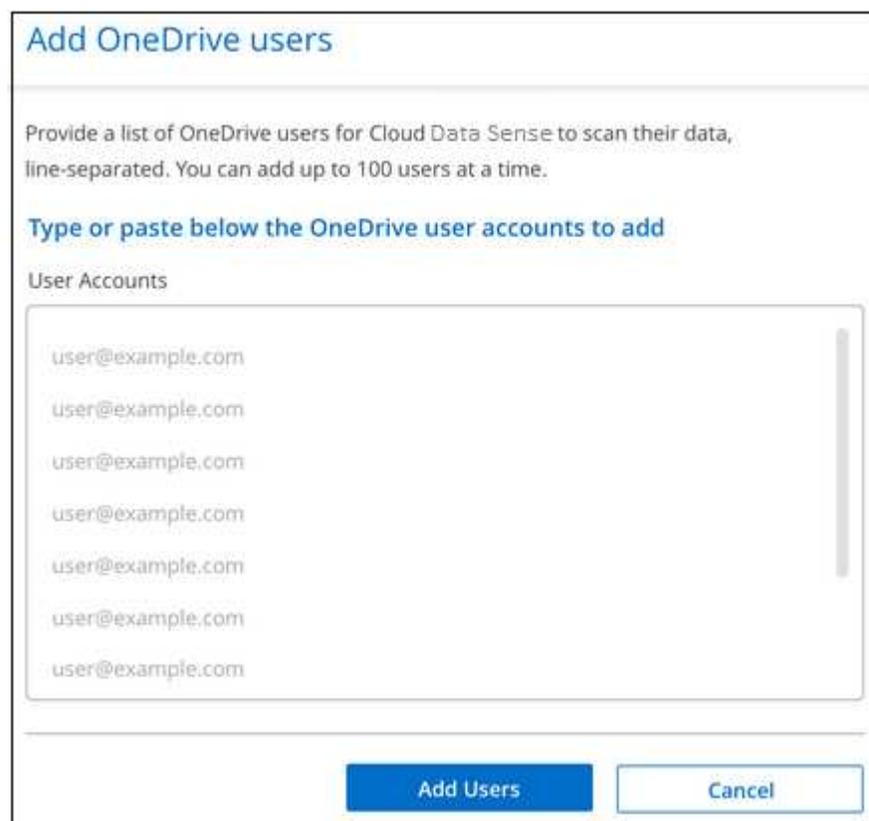


OneDrive アカウントからユーザーを追加する場合は、[* OneDrive ユーザーの追加 *]をクリックします。



ボタンを示すスクリーンショット。"]

3. ファイルをスキャンするユーザーの電子メールアドレスを 1 行に 1 つ追加し（セッションあたり最大 100 件）、[ユーザーの追加]をクリックします。



ページのスクリーンショット。"]

確認ダイアログに、追加されたユーザの数が表示されます。

ダイアログに追加できなかったユーザが表示される場合は、この情報を記録して問題を解決します。修正した E メールアドレスを使用してユーザを再追加できる場合もあります。

4. ユーザファイルに対して、マッピング専用スキャン、またはマッピングおよび分類スキャンをイネーブルにします。

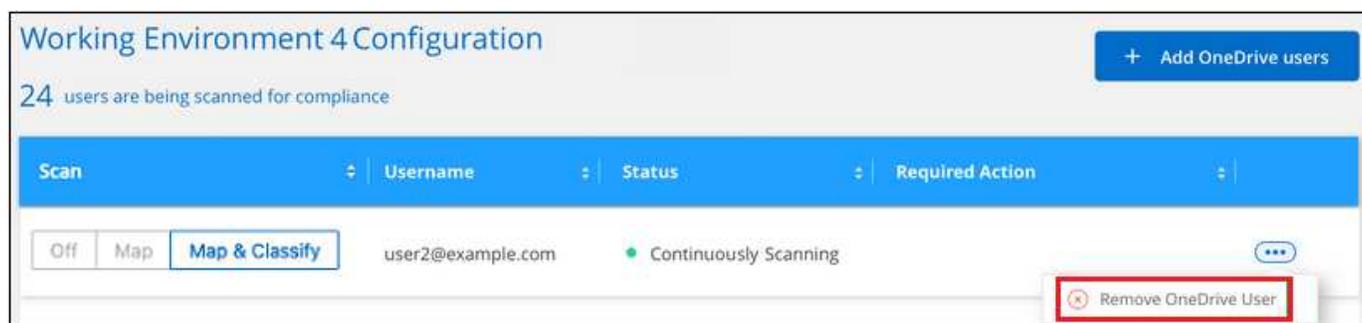
終了：	手順：
ユーザファイルに対してマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ユーザファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ユーザファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したユーザのファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

OneDrive ユーザーをコンプライアンススキャンから削除します

ユーザが会社から退出した場合や、E メールアドレスが変更された場合、個々の OneDrive ユーザがいつでもファイルをスキャンできないようにすることができます。[構成] ページで [OneDrive ユーザーの削除] をクリックします。



SharePoint アカウントのスキャン

BlueXPで分類されたSharePoint OnlineアカウントとSharePointオンプレミスアカウントのファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

SharePointの前提条件を確認する

SharePointアカウントにログインするための資格を持つ資格情報があり、スキャンするSharePointサイトのURLがあることを確認します。

2

BlueXP分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3

SharePointアカウントにログインします

資格のあるユーザクレデンシャルを使用して、アクセスするSharePointアカウントにログインし、新しいデータソース/作業環境として追加します。

4

スキャンするSharePointサイトのURLを追加します

SharePoint アカウントでスキャンする SharePoint サイト URL のリストを追加し、スキャンの種類を選択します。一度に最大100個のURLを追加でき、アカウントごとに合計1,000個のサイトを追加できます。

SharePointの要件を確認する

SharePointアカウントでBlueXP分類をアクティブ化する準備ができていることを確認するには、次の前提条件を確認してください。

- すべてのSharePointサイトへの読み取りアクセスを提供するSharePointアカウントの管理者ユーザーのログイン資格情報が必要です。
 - SharePoint Onlineの場合、管理者以外のアカウントを使用できますが、スキャンするすべてのSharePointサイトにアクセスするには、そのユーザーに権限が必要です。
- SharePoint On-Premiseについては、SharePoint ServerのURLも必要です。
- スキャンするすべてのデータについて、SharePoint サイトの URL の行区切りリストが必要です。

BlueXP分類インスタンスを導入します

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

- SharePoint Onlineでは、BlueXPは次のように分類できます **"クラウドに導入"**。
- オンプレミスのSharePointの場合は、BlueXPの分類をインストールできます **"インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所"** または **"インターネットにアクセスできないオンプレミスの場所"**。

インターネットにアクセスできないサイトにBlueXP分類がインストールされている場合は、インターネットにアクセスできない同じサイトにもBlueXP Connectorをインストールする必要があります。 **"詳細はこちら"**。

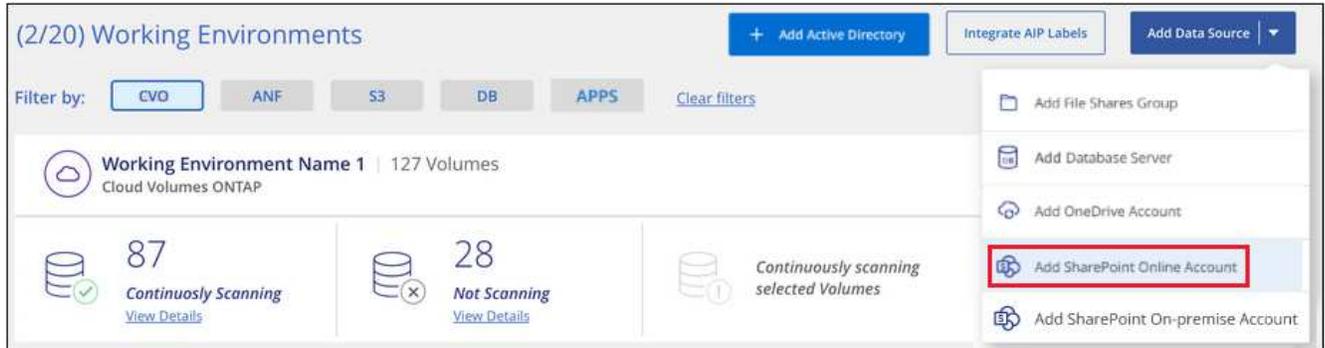
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

SharePoint Online アカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するSharePoint Onlineアカウントを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、[* データソースの追加 > SharePoint Online アカウントの追加 *] をクリックします。



ボタンをクリックできる[構成]ページのスクリーンショット。"]

2. [SharePoint Online アカウントの追加] ダイアログで、[* SharePoint にサインインする *] をクリックします。
3. 表示された[Microsoft]ページで、SharePointアカウントを選択してユーザとパスワード（管理者ユーザまたはSharePointサイトにアクセスできる他のユーザ）を入力し、*[同意する]*をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

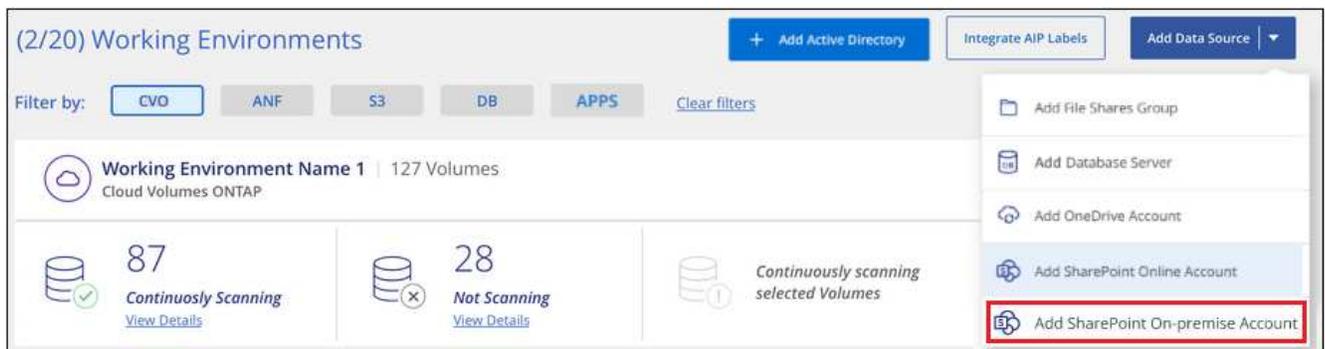
SharePoint Onlineアカウントが作業環境のリストに追加されます。

SharePointオンプレミスアカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するSharePointオンプレミスアカウントを追加します。

手順

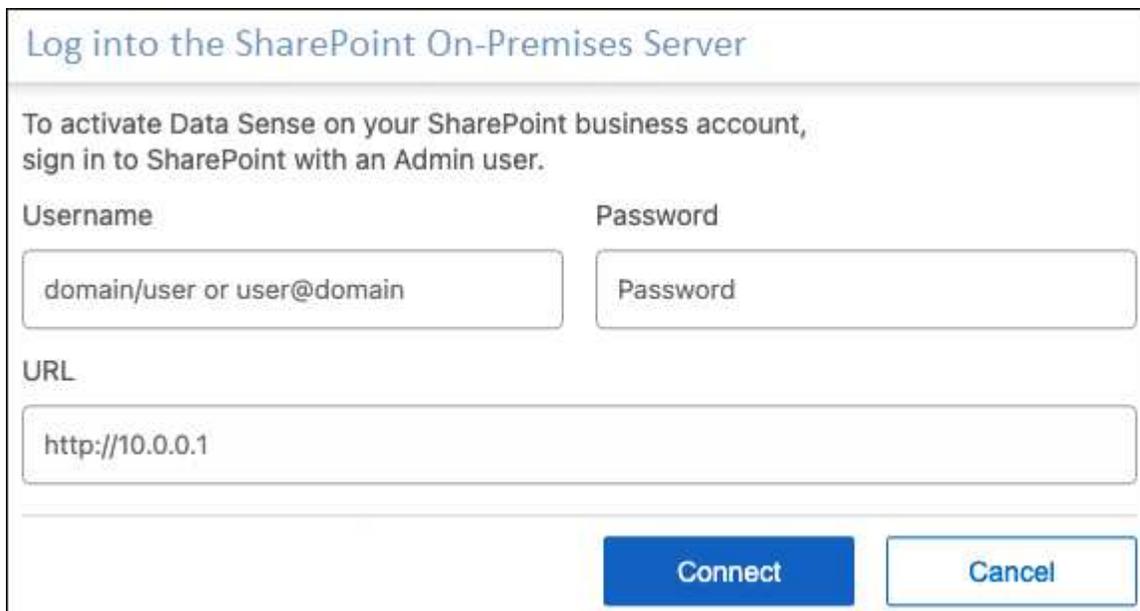
1. [作業環境の構成]ページで、[データソースの追加>* SharePointオンプレミスアカウントの追加*]をクリックします。



ボタンをクリックできる[構成]ページのスクリーンショット。"]

2. [SharePoint On-Premise Server]ダイアログで、次の情報を入力します。
 - 「domain/user」または「user@domain」の形式の管理ユーザとadminパスワード

- SharePoint ServerのURL



3. [接続] をクリックします。

SharePointのオンプレミスアカウントが作業環境のリストに追加されます。

SharePointサイトをコンプライアンススキャンに追加する

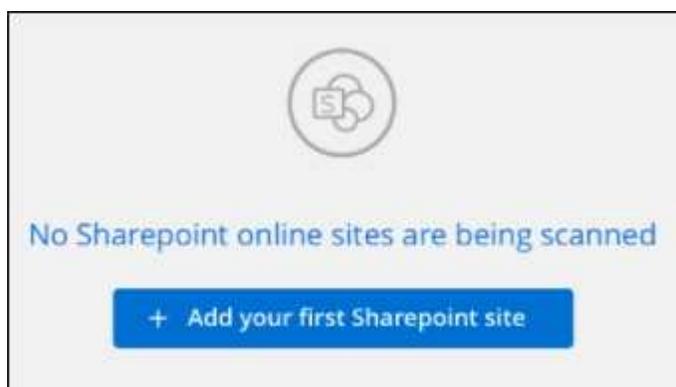
個々のSharePointサイトを追加することも、アカウントに最大1,000のSharePointサイトを追加して、関連するファイルがBlueXPの分類によってスキャンされるようにすることもできます。SharePoint OnlineサイトとSharePointオンプレミスサイトのどちらを追加する場合でも、手順は同じです。

手順

1. [Configuration] ページで、SharePoint アカウントの [Configuration] ボタンをクリックします。



2. この SharePoint アカウントのサイトを初めて追加する場合は、[*最初の SharePoint サイトを追加する*] をクリックします。

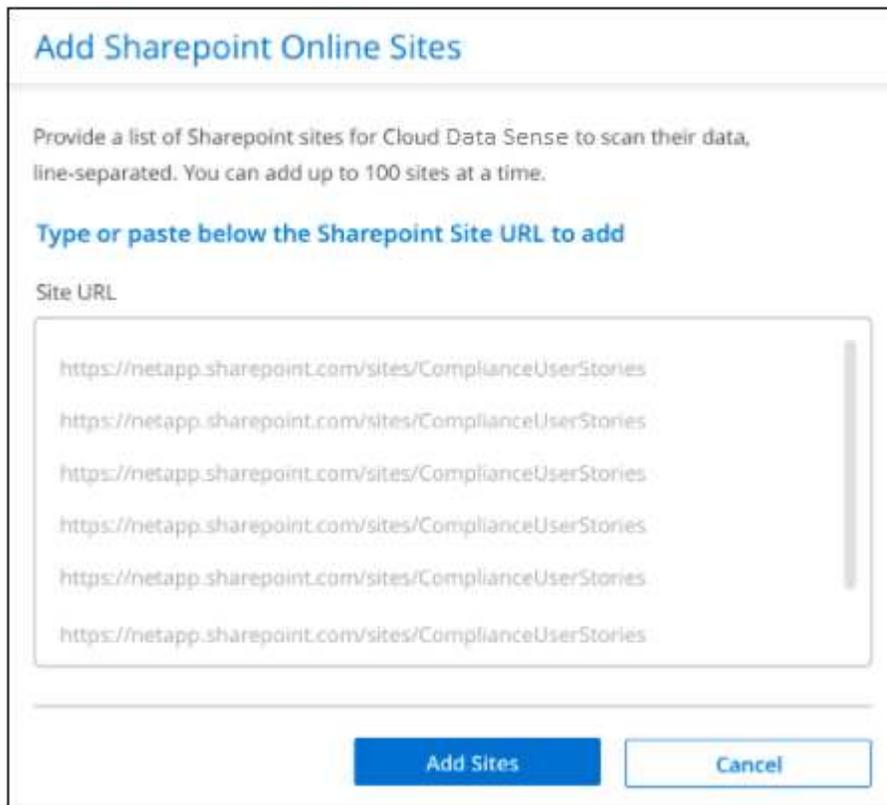


ボタンを示すスクリーンショット。"]

SharePoint アカウントからユーザーを追加する場合は、[* SharePoint サイトの追加*]をクリックします。



3. スキャンするファイルがあるサイトの URL を 1 行に 1 つ追加し（セッションあたり最大 100 URL）、[サイトの追加]をクリックします。



確認ダイアログに追加されたサイトの数が表示されます。

ダイアログに追加できなかったサイトが表示された場合は、問題を解決できるようにこの情報を記録します。場合によっては、URL を修正してサイトを再追加することができます。

4. このアカウントに100を超えるサイトを追加する必要がある場合は、[SharePointサイトの追加]*をもう一度クリックして、このアカウントのすべてのサイトを追加します(アカウントごとに合計1,000サイトまで)。
5. SharePoint サイト内のファイルに対して、マッピングのみのスキャン、またはマッピングと分類スキャンを有効にします。

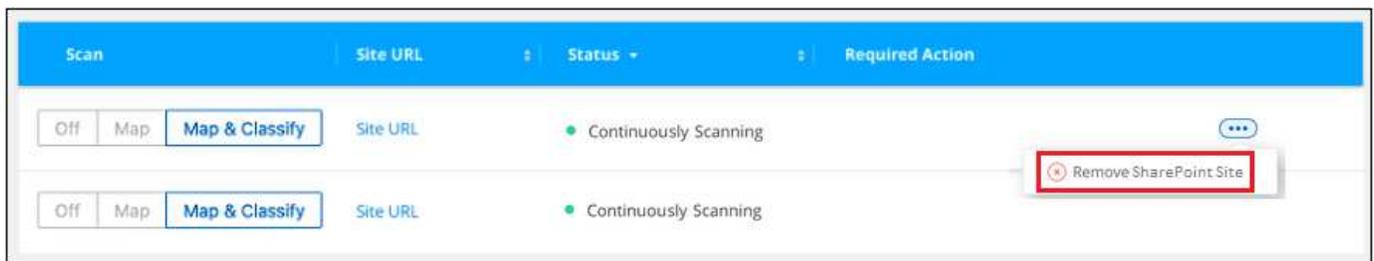
終了：	手順：
ファイルのマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したSharePointサイト内のファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

コンプライアンススキャンから**SharePoint**サイトを削除する

今後 SharePoint サイトを削除する場合や、SharePoint サイト内のファイルをスキャンしない場合は、個々のSharePoint サイトのファイルがいつでもスキャンされないようにすることができます。[構成] ページで [SharePoint サイトの削除] をクリックします。



できることに注意してください "[BlueXP分類からSharePointアカウント全体を削除します](#)" SharePointアカウントからユーザーデータをスキャンする必要がなくなった場合。

Googleドライブアカウントのスキャン

BlueXP分類を使用してGoogleドライブアカウントのユーザーファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

Googleドライブの前提条件を確認します

Googleドライブアカウントにログインするための管理者資格情報があることを確認します。

2

BlueXP分類を導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3

Googleドライブアカウントにログインします

Adminユーザのクレデンシャルを使用して、アクセスするGoogle Driveアカウントにログインし、新しいデータソースとして追加します。

4

ユーザファイルのスキャンタイプを選択します

ユーザファイルで実行するスキャンのタイプ（マッピングまたはマッピングおよび分類）を選択します。

Googleドライブの要件を確認する

次の前提条件を確認して、Google DriveアカウントでBlueXPの分類を有効にする準備ができていないことを確認してください。

- ユーザのファイルへの読み取りアクセスを提供するGoogle Driveアカウントの管理者ログインクレデンシャルが必要です

現在の制限

BlueXPの次の分類機能は、現在Google Driveファイルではサポートされていません。

- [データ調査]ページでファイルを表示している場合、ボタンバーのアクションはアクティブになりません。ファイルのコピー、移動、削除などはできません。
- Googleドライブ内のファイル内で権限を識別できないため、[調査] ページに権限情報は表示されません。

BlueXP分類を導入します

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

BlueXPには次のように分類できます "[クラウドに導入](#)" または "[インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所](#)"。

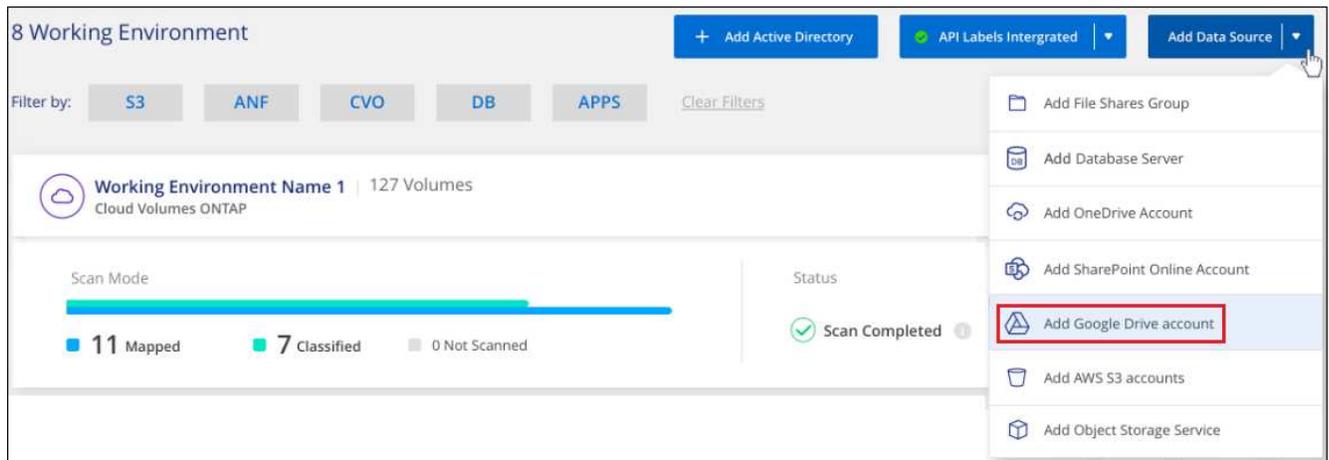
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

Googleドライブアカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するGoogleドライブアカウントを追加します。複数のユーザーからファイルをスキャンする場合は、ユーザーごとにこの手順を実行する必要があります。

手順

1. [作業環境の構成]ページで、[データソースの追加>* Googleドライブアカウントの追加*]をクリックします。



2. [Googleドライブアカウントの追加]ダイアログで、[Googleドライブへのサインイン*]をクリックします。
3. 表示された[Google]ページで、Google Driveアカウントを選択して必要な管理者ユーザとパスワードを入力し、*[同意する]*をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

Googleドライブアカウントが作業環境のリストに追加されます。

ユーザデータのスキャンのタイプを選択します

BlueXPで分類されるユーザのデータに対して実行するスキャンのタイプを選択します。

手順

1. _Configuration_pageで、Google Driveアカウントの* Configuration *ボタンをクリックします。



2. Google Driveアカウントのファイルに対して、マッピング専用スキャンまたはマッピングおよび分類スキャンを有効にします。



終了：	手順：
ファイルのマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したGoogle Driveアカウント内のファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

Google Driveアカウントをコンプライアンススキャンから削除する

1人のユーザーのGoogleドライブファイルのみが1つのGoogleドライブアカウントの一部であるため、ユーザーのGoogleドライブアカウントからのファイルのスキャンを停止する場合は、次の手順を実行します ["BlueXP分類からGoogle Driveアカウントを削除します"](#)。

S3プロトコルを使用するオブジェクトストレージをスキャンする

いくつかの手順を実行して、BlueXPの分類を使用してオブジェクトストレージ内のデータの直接スキャンを開始します。BlueXPの分類では、Simple Storage Service (S3) プロトコルを使用する任意のオブジェクトストレージサービスのデータをスキャンできます。これには、NetApp StorageGRID、IBM Cloud Object Store、Linode、B2クラウドストレージ、Amazon S3などが含まれます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

オブジェクトストレージの前提条件を確認する

オブジェクトストレージサービスに接続するには、エンドポイント URL が必要です。

BlueXP分類でバケットにアクセスできるように、オブジェクトストレージプロバイダのアクセスキーとシークレットキーが必要です。

2

BlueXP分類インスタンスを導入します

["BlueXP分類を導入します"](#) インスタンスが展開されていない場合。

3

オブジェクトストレージサービスを追加します

オブジェクトストレージサービスをBlueXP分類に追加します。

4

スキャンするバケットを選択します

スキャンするバケットを選択すると、BlueXPの分類によってスキャンが開始されます。

オブジェクトストレージ要件の確認

BlueXPの分類を有効にする前に、次の前提条件を確認して、サポートされる構成があることを確認してください。

- オブジェクトストレージサービスに接続するには、エンドポイント URL が必要です。
- BlueXP分類でバケットにアクセスできるように、オブジェクトストレージプロバイダのアクセスキーとシークレットキーが必要です。

BlueXP分類インスタンスの導入

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

インターネット経由でアクセス可能な S3 オブジェクトストレージからデータをスキャンする場合は、を実行します ["BlueXPの分類機能をクラウドに導入します"](#) または ["インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所にBlueXPの分類を導入します"](#)。

インターネットにアクセスできないダークサイトにインストールされている S3 オブジェクトストレージからデータをスキャンする場合は、が必要です ["インターネットアクセスのないオンプレミスと同じ場所にBlueXPの分類を導入します"](#)。また、BlueXPコネクタがオンプレミスの同じ場所に配置されている必要があります。

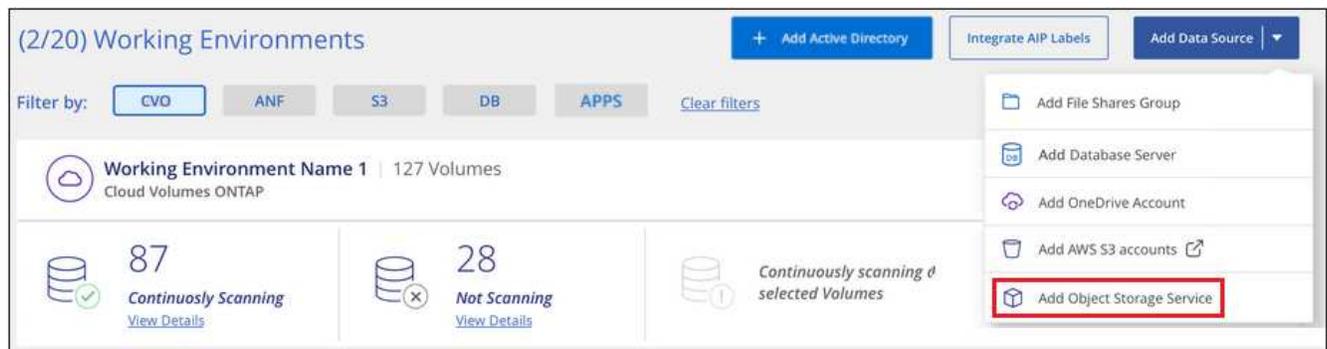
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

オブジェクトストレージサービスをBlueXP分類に追加しています

オブジェクトストレージサービスを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、[* データソースの追加 > オブジェクトストレージサービスの追加 *] をクリックします。



2. Add Object Storage Service ダイアログで、オブジェクトストレージサービスの詳細を入力し、* Continue * をクリックします。
 - a. 作業環境に使用する名前を入力します。この名前には、接続先のオブジェクトストレージサービスの名前を指定する必要があります。
 - b. エンドポイントの URL を入力してオブジェクトストレージサービスにアクセスします。
 - c. [Access Key]と[Secret Key]を入力して、BlueXPの分類がオブジェクトストレージ内のバケットにアクセスできるようにします。

Add Object Storage Service

Cloud Data Sense can scan data from any Object Storage service which uses the S3 protocol. This includes NetApp StorageGRID, IBM Object Store, and more.

To continue, enter the following information. In the next steps you'll need to select the buckets you want to scan.

Name the Working Environment: Endpoint URL:

Access Key: Secret Key:

結果

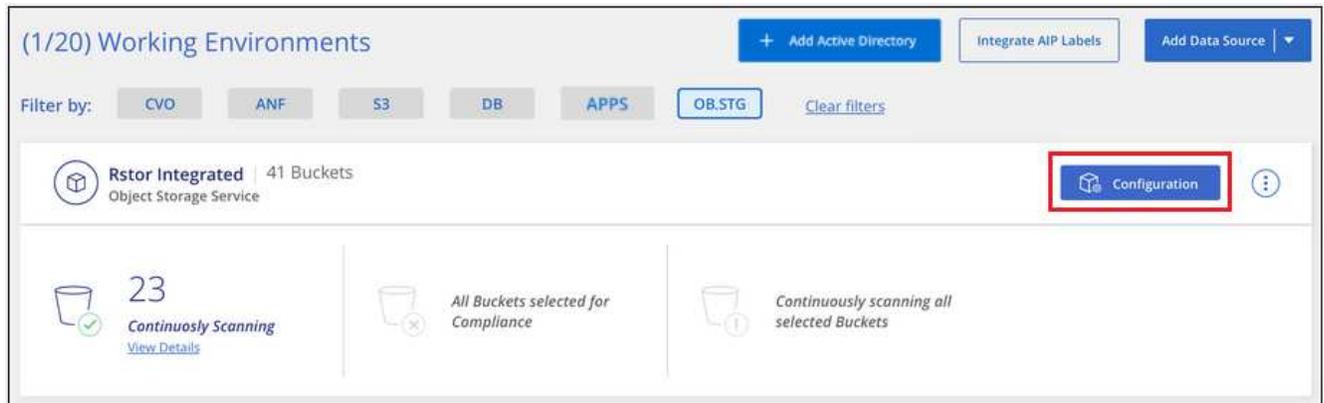
新しいオブジェクトストレージサービスが作業環境のリストに追加されます。

オブジェクトストレージバケットでの準拠スキャンの有効化と無効化

オブジェクトストレージサービスでBlueXPの分類を有効にしたら、次の手順でスキャンするバケットを設定します。BlueXPの分類により、該当するバケットが検出され、作成した作業環境に表示されます。

手順

1. 設定ページで、Object Storage Service 作業環境の * 設定 * をクリックします。



2. バケットでマッピング専用スキャン、またはマッピングスキャンと分類スキャンを有効にします。

Rstor Integrated Configuration			
3/55 Buckets selected for Compliance scan			
Scan	Storage Repository (Bucket) ↓↑	Status ↓↑	Required Action ↓↑
<input type="button" value="Off"/> <input type="button" value="Map"/> <input type="button" value="Map & Classify"/>	logs-759995470648-us-east-1	● Not Scanning	
<input type="button" value="Off"/> <input type="button" value="Map"/> <input type="button" value="Map & Classify"/>	logs-759995470648-us-west-2	● Not Scanning	
<input type="button" value="Off"/> <input checked="" type="button" value="Map"/> <input type="button" value="Map & Classify"/>	carstock	● Continuously Scanning	

終了：	手順：
バケットでマッピングのみのスキャンを有効にする	[* マップ *] をクリックします
バケットでフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
バケットに対するスキャンを無効にする	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類で、有効にしたバケットのスキャンが開始されます。エラーが発生した場合は、エラーを修正するために必要なアクションとともに、[ステータス]列に表示されます。

データの廃止を管理する

ガバナンスダッシュボードを使用してデータに関するガバナンスの詳細を表示する

組織のストレージリソース上のデータに関連するコストを管理できます。BlueXPは分類されるため、システム内の古いデータ、ビジネス以外のデータ、重複ファイル、大容量ファイルの量が特定されるため、一部のファイルを削除するか、低コストのオブジェクトストレージに階層化するかを判断できます。

さらに、オンプレミスの場所からクラウドにデータを移行する場合は、データのサイズと、機密情報が含まれているデータがあるかどうかを移動前に確認できます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

ガバナンスダッシュボードの機密性と幅広い権限別にリストされたデータ

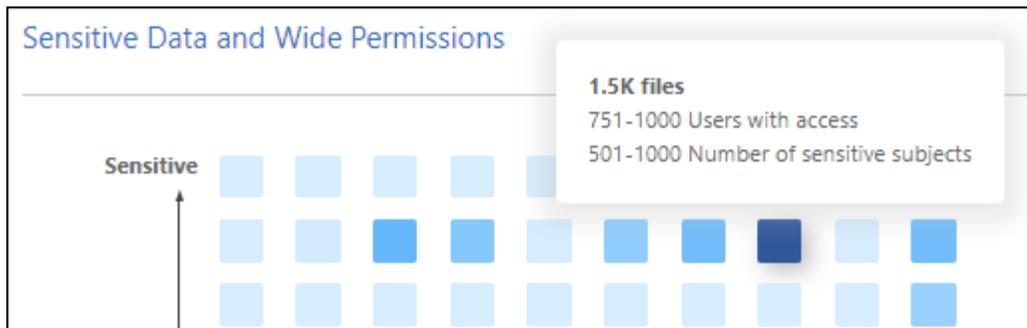
ガバナンスダッシュボードの_Sensitive DataとWide Permissions_領域には、機密データ（機密性の高い個人データと機密性の高い個人データの両方を含む）を含むファイルのヒートマップが表示されます。これにより、機密データを含むリスクがある場所を確認できます。



この環境BlueXP分類バージョン1.30以前。

ファイルは、X軸（最小から最大）上のファイルへのアクセス権を持つユーザの数、およびY軸（最小から最大）上のファイル内の機密識別子の数に基づいて評価されます。ブロックは、X軸とY軸のアイテムに一致す

るファイルの数を表します。明るい色のブロックは適切で、ファイルにアクセスできるユーザーが少なく、ファイルごとの機密識別子が少なくなります。濃いブロックは、調査する項目です。たとえば、下の画面には濃い青のブロックのツールチップテキストが表示されています。751-100ユーザーがアクセスできるファイルが1、500個あり、ファイルごとに501-100の機密識別子があることが示されています。



[調査]ページで、影響を受けるファイルのフィルタリングされた結果を表示するには、対象となるブロックをクリックします。これにより、詳細な調査が可能になります。

アイデンティティサービスをBlueXP分類に統合していない場合、このパネルにデータは表示されません。["Active DirectoryサービスとBlueXPの分類を統合する方法をご紹介します"](#)。



このパネルでは、CIFS共有、OneDrive、SharePointのデータソースのファイルをサポートしています。現在、データベース、Googleドライブ、Amazon S3、汎用オブジェクトストレージはサポートされていません。

AIPラベルが表示されたダッシュボードの分類領域

ダッシュボードの `_Classification_area` には、スキャンしたデータで最も識別されたAzure Information Protection (AIP) ラベルのリストが表示されます。

Azure Information Protection (AIP) に加入している場合は、コンテンツにラベルを適用することで、ドキュメントとファイルを分類して保護できます。ファイルに割り当てられている最も使用されているAIPラベルを確認すると、ファイルで最も使用されているラベルを確認できます。

を参照してください ["AIP ラベル"](#) を参照してください。

プライベートデータを整理します

BlueXPの分類では、プライベートデータをさまざまな方法で管理、整理できます。これにより、最も重要なデータを簡単に確認できます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。2023年12月 (v1.26.6) リリースでは、Azure Information Protection (AIP) ラベルを使用してデータを統合するオプションが削除されました。

- に登録している場合は ["Azure 情報保護 \(AIP\)"](#) ファイルを分類して保護するには、BlueXPの分類を使用してAIPラベルを管理します。
- 組織または特定の種類のフォローアップのためにマークするファイルにタグを追加できます。

- BlueXPユーザーを特定のファイルまたは複数のファイルに割り当てることで、ユーザーがファイルの管理を担当できるようになります。
- 「ポリシー」機能を使用すると、1つのボタンをクリックして簡単に結果を表示できるように、独自のカスタム検索クエリを作成できます。
- 特定の重要なポリシーの結果が返された場合は、BlueXPユーザーまたはその他の電子メールアドレスに電子メールアラートを送信できます。



このセクションで説明する機能は、データソースに対して完全な分類スキャンを実行することを選択した場合にのみ使用できます。マッピングのみのスキャンを実行したデータソースでは、ファイルレベルの詳細は表示されません。

タグまたはラベルを使用する必要がありますか？

以下は、BlueXPの分類タギングとAzure Information Protectionのラベル付けの比較です。

タグ	ラベル
ファイルタグはBlueXPに統合された分類機能です。	Azure Information Protection (AIP) に加入している必要があります。
タグはBlueXP分類データベースにのみ保存され、ファイルには書き込まれません。ファイル、アクセス日時または変更日時は変更されません。	ラベルはファイルの一部であり、ラベルが変更されるとファイルが変更されます。この変更によって、アクセス日時や変更日時も変更されます。
1つのファイルに複数のタグを設定できます。	1つのファイルに1つのラベルを付けることができます。
このタグは、BlueXPの内部分類アクション（コピー、移動、削除、ポリシーの実行、など）	ファイルを読み取ることができる他のシステムでは、ラベルを確認できます。このラベルは、自動化のために使用できます。
ファイルにタグが設定されているかどうかを確認するために使用される API 呼び出しは 1 つだけです。	

AIP ラベルを使用してデータを分類します

サブスクリプション済みの場合は、BlueXP分類でスキャンするファイルでAIPラベルを管理できます ["Azure 情報保護 \(AIP\)"](#)。AIPを使用すると、コンテンツにラベルを適用することで、ドキュメントやファイルを分類して保護できます。BlueXPでは、ファイルにすでに割り当てられているラベルの表示、ファイルへのラベルの追加、既存のラベルの変更を行うことができます。

BlueXPの分類では、.DOC、.DOCX、.PDF、.PPTX、.XLSの各ファイルタイプでAIPラベルがサポートされます。.XLSX。



- 現在、30MBを超えるファイルのラベルは変更できません。OneDrive、SharePoint、Google Driveアカウントの場合、最大ファイルサイズは4 MBです。
- AIPに存在しないラベルがファイルに含まれている場合、BlueXPの分類ではラベルのないファイルとみなされます。
- 政府機関の地域、またはインターネットアクセスのないオンプレミスの場所（ダークサイトとも呼ばれます）にBlueXPの分類を導入している場合は、AIPラベル機能を使用できません。

ワークスペースにAIPラベルを統合

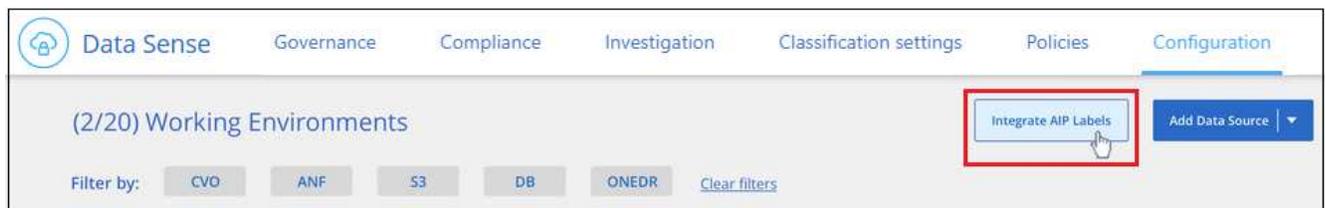
AIPラベルを管理するには、既存のAzureアカウントにサインインして、AIPラベル機能をBlueXPの分類に統合する必要があります。有効にすると、すべてのファイルのAIPラベルを管理できます "データソース" を選択します。

要件

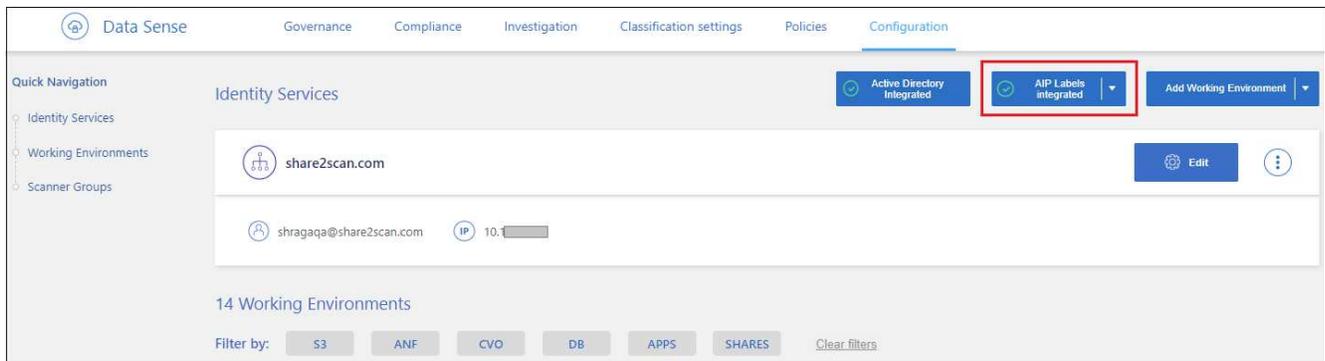
- アカウントと Azure Information Protection のライセンスが必要です。
- Azure アカウントのログインクレデンシャルが必要です。
- Amazon S3 バケット内のファイルのラベルを変更する場合は、権限「3 : PutObject」が IAM ロールに含まれていることを確認します。を参照してください "IAM ロールを設定します"。

手順

1. BlueXPの分類の[設定]ページで、*[Integrate AIP Labels]*をクリックします。



2. [Integrate AIP Labels (AIPラベルの統合)] ダイアログで、[* Sign in to Azure* (Azureにサインイン)]
3. 表示される Microsoft ページで、アカウントを選択し、必要なクレデンシャルを入力します。
4. BlueXPの分類タブに戻り、「_AIP Labels were integrated successfully with the account <account_name>_」というメッセージが表示されます。
5. [* 閉じる] をクリックすると、ページの上部に「AIPラベル *integrated_*」というテキストが表示されます。



結果

AIPラベルは、[調査] ページの結果ペインで表示および割り当てることができます。また、ポリシーを使用してAIPラベルをファイルに割り当てることができます。

ファイル内のAIPラベルの表示

ファイルに割り当てられている現在のAIPラベルを表示できます。

[データ調査結果] ペインで、をクリックします ▼ をクリックします。



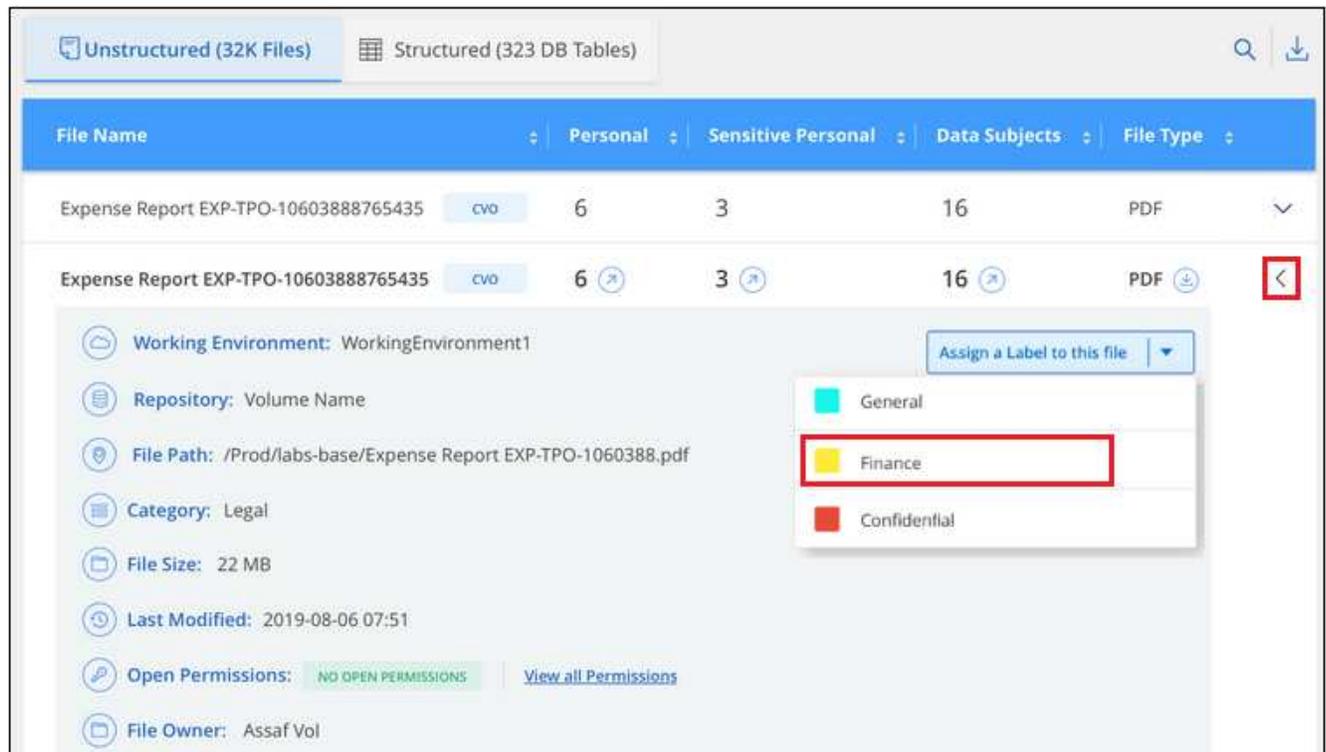
AIPラベルの自動割り当て

BlueXPの分類を使用して、ファイルのAIPラベルを追加、変更、削除できます。

AIP ラベルを 1 つのファイルに割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、をクリックします ▼ をクリックします。



ページのファイルのメタデータの詳細を示すスクリーンショット。"]

2. [* このファイルにラベルを割り当て *] をクリックして、ラベルを選択します。

ラベルがファイルメタデータに表示されます。

AIPラベルを複数のファイルに割り当てる手順は、次のとおりです。AIPラベルは、一度に最大20個のファイル（UIの1ページ）に割り当てることができます。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、ラベル付けするファイルを選択します。



<input type="checkbox"/>	File Name	Personal	Sensitive Personal	Data Subjects	File Type	
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	16	PDF
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF

ページの [ラベル] ボタン。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル（ Volume_1）。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行（ File Name）。

2. ボタンバーの *Label* をクリックし、AIP ラベルを選択します。



AIP ラベルが、選択したすべてのファイルのメタデータに追加されます。

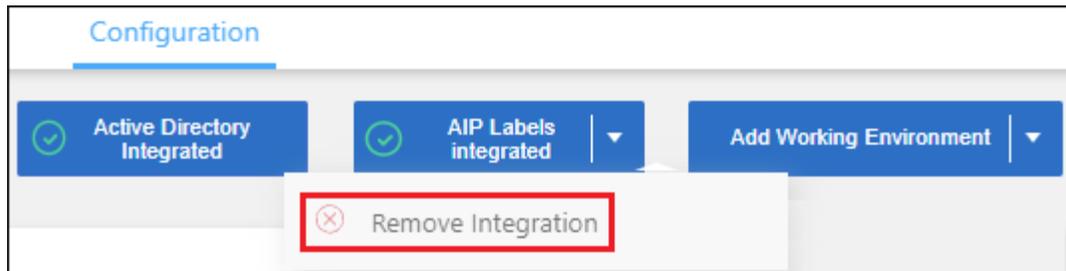
AIP統合の削除

ファイル内のAIPラベルを管理する必要がなくなった場合は、BlueXPの分類インターフェイスからAIPアカウントを削除できます。

BlueXPの分類を使用して追加したラベルは変更されません。ファイルに存在するラベルは、現在存在しているラベルのままになります。

手順

1. `_Configuration_page` で、*AIP ラベル統合 > 統合の削除* をクリックします。



2. 確認ダイアログで、[統合の削除（Remove Integration）]をクリックします。

タグを適用してスキャンしたファイルを管理

特定の種類のフォローアップでマークするファイルにタグを追加できます。たとえば、重複するファイルがいくつか見つかった場合に、それらのファイルを1つ削除する必要がありますが、削除するファイルを確認する必要があります。このファイルに「削除するチェック」というタグを追加すると、このファイルに何らかの調査と将来のアクションが必要であることがわかります。

BlueXPでは、ファイルに割り当てられているタグの表示、ファイルに対するタグの追加と削除、名前の変更や既存のタグの削除を行うことができます。

AIP ラベルがファイルメタデータの一部であるのと同じ方法で、タグがファイルに追加されないことに注意してください。このタグはBlueXPユーザのみがBlueXP分類を使用して確認できるため、ファイルを削除する必要があるかどうか、または何らかのフォローアップが必要かどうかを確認できます。

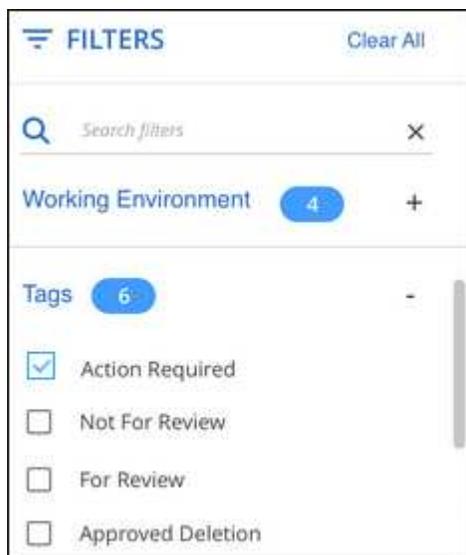


BlueXPで分類されたファイルに割り当てられたタグは、リソース（ボリュームや仮想マシンインスタンスなど）に追加できるタグとは関係ありません。BlueXPの分類タグはファイルレベルで適用されます。

特定のタグが適用されているファイルを表示する

特定のタグが割り当てられているすべてのファイルを表示できます。

1. BlueXP分類の*[Investigation]*タブをクリックします。
2. [データ調査] ページで、[フィルタ] ペインの[* タグ] をクリックし、必要なタグを選択します。



ペインからタグを選択する方法を示すスクリーンショット。"]

[調査結果] ペインには、これらのタグが割り当てられているすべてのファイルが表示されます。

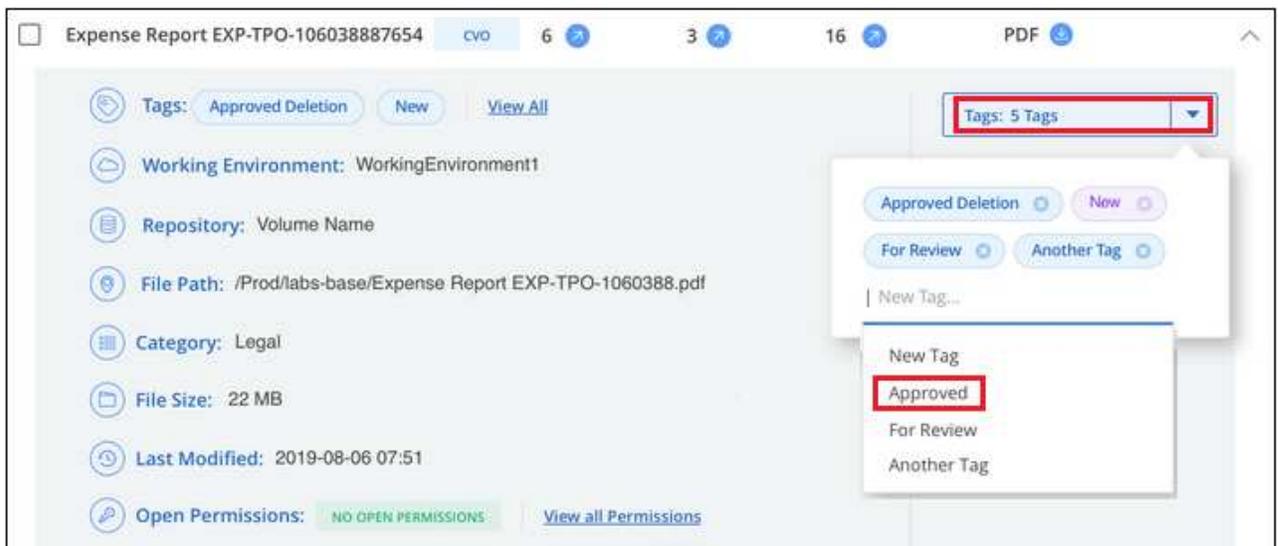
ファイルへのタグの割り当て

タグは、単一のファイルまたはファイルのグループに追加できます。

タグを 1 つのファイルに追加するには：

手順

1. [データ調査結果] ペインで、をクリックします  をクリックします。
2. [* タグ * (* Tags *)] フィールドをクリックすると、現在割り当てられているタグが表示されます。
3. タグを追加します。
 - 既存のタグを割り当てるには、「 * 新しいタグ ... 」フィールドをクリックして、タグの名前を入力します。探しているタグが表示されたら、そのタグを選択して * Enter * を押します。
 - 新しいタグを作成してファイルに割り当てるには、[新しいタグ ...] * フィールドをクリックし、新しいタグの名前を入力して、 **Enter** キーを押します。



ページでファイルにタグを割り当てる方法を示すスクリーンショット。"]

タグがファイルメタデータに表示されます。

複数のファイルにタグを追加するには：

手順

1. [データ調査結果] ペインで、タグを付けるファイルを選択します。

255 items 1.2 GB | 2 Selected 3 MB Tags Assign to Label Copy Move Delete

<input type="checkbox"/>	File Name	Personal	Sensitive Personal	Data Subjects	File Type	
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	16	PDF
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF

ページから、タグを付けるファイルの選択方法と [タグ] ボタンを示すスクリーンショット。"]

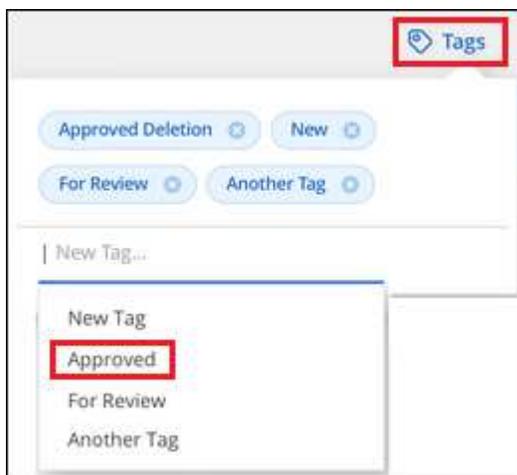
- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1)。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name)。
- すべてのページすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) をクリックし、ポップアップメッセージに入力します All 20 Items on this page selected Select all Items in list (63K Items) をクリックし、リスト (xxx 項目) のすべての項目を選択 * をクリックします。

一度に最大100,000個のファイルにタグを適用できます。

2. ボタンバーで * タグ * をクリックすると、現在割り当てられているタグが表示されます。

3. タグを追加します。

- 既存のタグを割り当てるには、「* 新しいタグ ...」フィールドをクリックして、タグの名前を入力します。探しているタグが表示されたら、そのタグを選択して * Enter * を押します。
- 新しいタグを作成してファイルに割り当てるには、[新しいタグ ...]* フィールドをクリックし、新しいタグの名前を入力して、**Enter** キーを押します。



ページで複数のファイルにタグを割り当てる方法を示すスクリーンショット。"]

4. 確認ダイアログでタグの追加を承認し、選択したすべてのファイルのメタデータにタグを追加します。

ファイルからタグを削除

不要になったタグは削除できます。

既存のタグの *x* をクリックするだけです。



複数のファイルを選択した場合、タグはすべてのファイルから削除されます。

特定のファイルを管理するためのユーザの割り当て

BlueXPユーザーを特定のファイルまたは複数のファイルに割り当てることができるため、ユーザーはファイルに対して実行する必要があるフォローアップアクションを実行できます。この機能は、多くの場合、カスタムステータスタグをファイルに追加する機能で使用されます。

たとえば、特定の個人データを含むファイルで、読み取りおよび書き込みアクセス（オープン権限）を大量に許可する場合などです。したがって、Status タグ「Change permissions」を割り当て、このファイルをユーザー「Joan Smith」に割り当てて、問題の修正方法を決定することができます。問題を修正すると、Status タグが「Completed」に変更されることがあります。

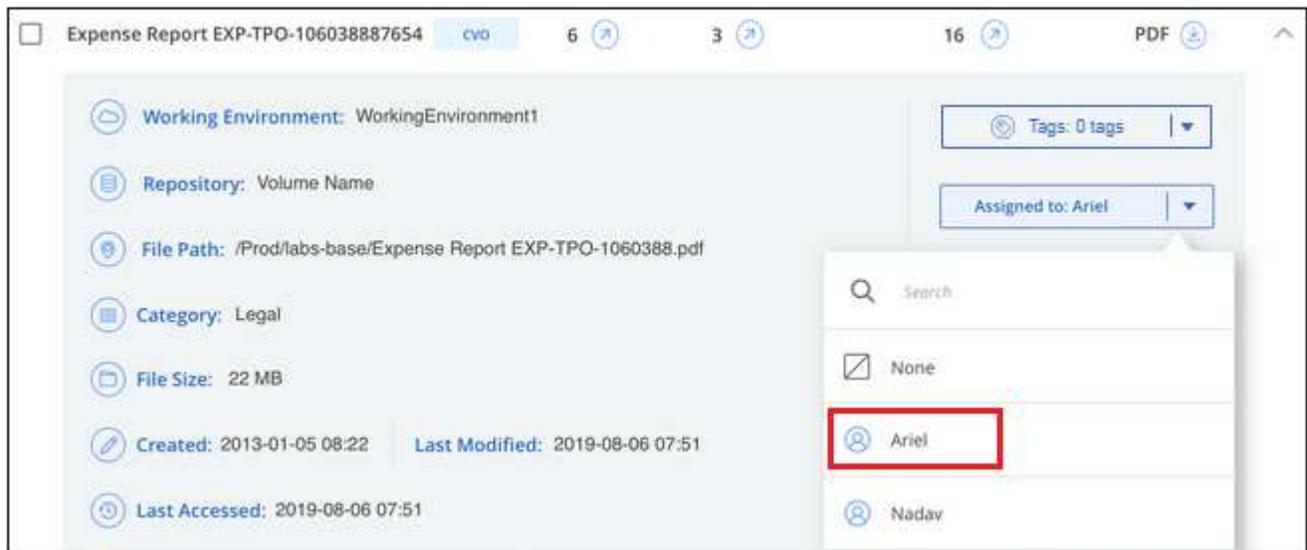
ユーザ名はファイルメタデータの一部としてファイルに追加されるわけではなく、BlueXPユーザがBlueXP分類を使用している場合にのみ表示されます。

[調査] ページの新しいフィルタを使用すると、[割り当て先] フィールドに同じユーザーを持つすべてのファイルを簡単に表示できます。

ユーザを単一のファイルに割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、をクリックします  をクリックします。
2. **[Assigned To]** フィールドをクリックして、ユーザ名を選択します。



ページでファイルにユーザーを割り当てる方法を示すスクリーンショット。"]

ユーザ名がファイルメタデータに表示されます。

ユーザーを複数のファイルに割り当てるには、次の手順を実行します。一度に最大20個のファイルにユーザーを割り当てることができます（UIの1ページ）。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、ユーザーに割り当てるファイルを選択します。

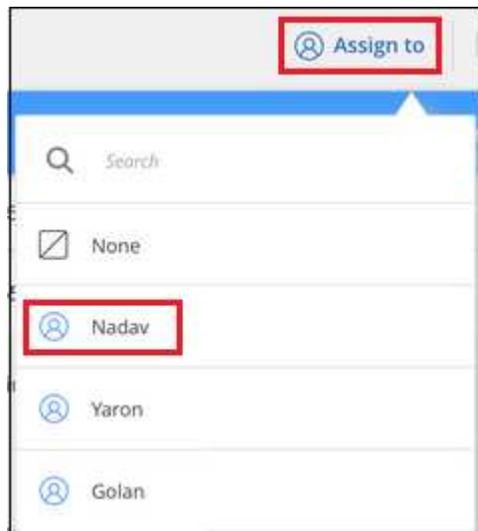


<input type="checkbox"/>	File Name	Personal	Sensitive Personal	Data Subjects	File Type	
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	16	PDF
<input checked="" type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF
<input type="checkbox"/>	Expense Report EXP-TPO-106038887654	cvo	6	3	6	PDF

ページから、ユーザーに割り当てるファイルの選択方法と [割り当て先] ボタンを示すスクリーンショット。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1) 。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) 。

2. ボタンバーで * Assign to * をクリックし、ユーザー名を選択します。



ページでユーザーを複数のファイルに割り当てる方法を示すスクリーンショット。"]

選択したすべてのファイルのメタデータにユーザが追加されます。

プライベートデータを管理

BlueXPは、さまざまな方法でプライベートデータを管理できます。一部の機能を使用すると、データの移行準備が簡単になります。また、他の機能を使用してデータを変更することもできます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

- 特定のデータのコピーを作成して別の NFS の場所に移動する場合は、デスティネーションの NFS 共有にファイルをコピーできます。
- ONTAP ボリュームを新しいボリュームにクローニングしたり、選択したファイルだけをソースボリュームから新しいクローンボリュームに含めたりできます。これは、データを移行する際に元のボリュームから特定のファイルを除外する場合に便利です。
- ソースリポジトリから特定の保存先にあるディレクトリにファイルをコピーして同期できます。これは、ソースファイルに対して何らかの最終的なアクティビティが行われている間に、あるソースシステムから別のソースシステムにデータを移行する場合に便利です。
- BlueXP分類でスキャンするソースファイルを任意のNFS共有に移動できます。
- 安全でないようであるか危険すぎると思われるファイルを削除して、ストレージシステムに残すことも、重複として識別したファイルを削除することもできます。



- このセクションで説明する機能は、データソースに対して完全な分類スキャンを実行することを選択した場合にのみ使用できます。マッピングのみのスキャンを実行したデータソースでは、ファイルレベルの詳細は表示されません。
- Google Driveアカウントのデータでは、現時点でこれらの機能を使用することはできません。

ソースファイルをコピーします

BlueXP分類でスキャンしている任意のソースファイルをコピーできます。実行しようとしている処理に応じて、次の3種類のコピー処理があります。

- * 同一または異なるボリュームまたはデータソースからデスティネーション NFS 共有にファイル * をコピーします。

これは、特定のデータのコピーを作成して別の NFS の場所に移動する場合に便利です。

- * ONTAP ボリュームのクローンを同じアグリゲート内の新しいボリュームに作成します。新しいクローンボリュームには、ソースボリュームから選択されたファイルのみを含めます。

これは、データを移行する際に元のボリュームから特定のファイルを除外する場合に便利です。このアクションではを使用します "NetApp FlexClone" ボリュームをすばやく複製し、* 選択しなかったファイルを削除する機能。

- * 単一のソースリポジトリ（ONTAP ボリューム、S3 バケット、NFS 共有など）から特定のデスティネーション（ターゲット）にあるディレクトリにファイルをコピーして同期します。

これは、あるソースシステムから別のシステムにデータを移行する場合に便利です。最初のコピーの後、設定したスケジュールに基づいて変更されたデータが同期されます。このアクションではを使用します "NetApp BlueXPのコピーと同期" データをソースからターゲットにコピーおよび同期する機能。

ソースファイルをNFS共有にコピーする

BlueXP分類でスキャンしているソースファイルは、任意のNFS共有にコピーできます。NFS共有をBlueXPに統合する必要はありません。選択したすべてのファイルがコピーされるNFS共有の名前を指定するだけです <host_name>:/<share_path>。



データベースに存在するファイルはコピーできません。

要件

- ファイルをコピーするには、アカウント管理者またはワークスペース管理者の役割が必要です。
- ファイルをコピーするには、デスティネーションNFS共有でBlueXP分類インスタンスからのアクセスが許可されている必要があります。
- 一度に1~100,000個のファイルのコピーできます。

手順

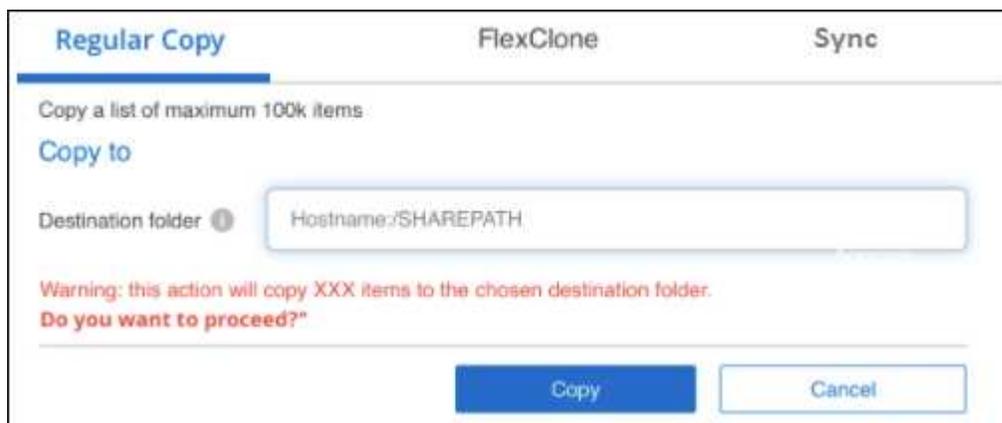
1. [データ調査結果] ペインで、コピーするファイルを選択し、[* コピー] をクリックします。



ページからコピーするファイルを選択する方法と、[コピー] ボタンを示すスクリーンショット。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1)。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name)。
- すべてのページすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) をクリックし、ポップアップメッセージに入力します All 20 Items on this page selected Select all Items in list (63K Items) をクリックし、リスト (xxx 項目) のすべての項目を選択 * をクリックします。

2. _ファイルのコピー_ ダイアログで * 標準コピー * タブを選択します。



3. 選択したすべてのファイルのコピーする NFS 共有の名前を「<host_name> : /<share_path>`」の形式で入力し、「* Copy *」をクリックします。

コピー処理のステータスを示すダイアログが表示されます。

コピー処理の進捗状況は確認できます [アクションステータス (Actions Status) パネル]。

ファイルのメタデータの詳細を表示するときに、個々のファイルをコピーすることもできます。[ファイルのコピー]をクリックします。



ページのファイルのメタデータ詳細から [ファイルのコピー] ボタンを選択したことを示すスクリーンショット。"]

新しいボリュームへのボリュームデータのクローニング

BlueXPでスキャンしている既存のONTAP ボリュームは、netapp_FlexClone_functionalityを使用してクローニングできます。これにより、選択したファイルのみを含めて、ボリュームをすばやく複製できます。この機能は、データを移行する際に元のボリュームから特定のファイルを除外する場合や、テスト用にボリュームのコピーを作成する場合に便利です。

新しいボリュームは、ソースボリュームと同じアグリゲート内に作成されます。このタスクを開始する前に、アグリゲート内にこの新しいボリューム用の十分なスペースがあることを確認してください。必要に応じて、ストレージ管理者にお問い合わせください。

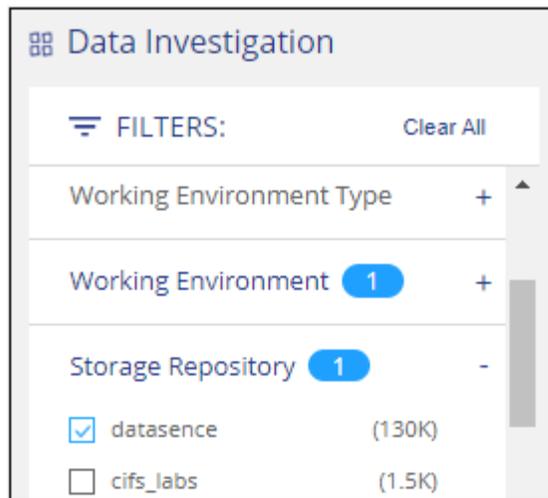
- ・注：* FlexGroup ボリュームは FlexClone でサポートされていないため、クローンを作成できません。

要件

- ・ファイルをコピーするには、アカウント管理者またはワークスペース管理者の役割が必要です。
- ・少なくとも20個のファイルを選択する必要があります。
- ・選択したファイルはすべて同じボリュームにあり、ボリュームがオンラインである必要があります。
- ・ボリュームは、Cloud Volumes ONTAP またはオンプレミスの ONTAP システムから選択する必要があります。他のデータソースは現在サポートされていません。
- ・クラスタに FlexClone ライセンスがインストールされている必要があります。このライセンスは、Cloud Volumes ONTAP システムにデフォルトでインストールされます。

手順

1. [データ調査] ペインで、1つの * 作業環境 * と1つの * ストレージリポジトリ * を選択してフィルタを作成し、すべてのファイルが同じ ONTAP ボリュームにあることを確認します。



新しいボリュームにクローニングするファイルだけが表示されるように、他のフィルタを適用します。

2. [調査結果] ペインで、複製するファイルを選択し、[*コピー*] をクリックします。



ページからコピーするファイルを選択する方法と、[コピー] ボタンを示すスクリーンショット。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1)。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name)。
- すべてのページすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) をクリックし、ポップアップメッセージに入力します **All 20 Items on this page selected** [Select all Items in list \(63K Items\)](#) をクリックし、リスト (xxx 項目) のすべての項目を選択 * をクリックします。

3. _ファイルのコピー_ ダイアログで *FlexClone* タブを選択します。このページには、ボリュームからクローニングされるファイル (選択したファイル) の総数と、クローンボリュームに含まれている / 削除されていないファイル (選択しなかったファイル) の数が表示されます。

4. 新しいボリュームの名前を入力し、* FlexClone * をクリックします。

クローン処理のステータスを示すダイアログが表示されます。

結果

新しいクローンボリュームは、ソースボリュームと同じアグリゲート内に作成されます。

クローニング処理の進捗状況は確認できます "[[アクションステータス \(Actions Status \)](#) パネル]"。

ソースボリュームが配置されている作業環境でBlueXPの分類を有効にしたときに最初に*[すべてのボリュームをマッピングして分類]*を選択した場合は、新しいクローンボリュームが自動的にスキャンされます。最初にこれらのいずれかを使用しなかった場合は、この新しいボリュームをスキャンする必要があります "[ボリュームのスキャンを手動で有効にします](#)"。

ソースファイルをターゲットシステムにコピーして同期する

BlueXP分類でスキャンしているソースファイルを、サポートされている非構造化データソースから特定のターゲットデスティネーションの場所にあるディレクトリにコピーできます ("[BlueXPのコピーと同期でサポートされるターゲットの場所](#)")。最初のコピー後、ファイル内で変更されたデータは、設定したスケジュールに基づいて同期されます。

これは、あるソースシステムから別のシステムにデータを移行する場合に便利です。このアクションではを使用します "[NetApp BlueXPのコピーと同期](#)" データをソースからターゲットにコピーおよび同期する機能。



データベース、OneDrive アカウント、SharePoint アカウントにあるファイルはコピーおよび同期できません。

要件

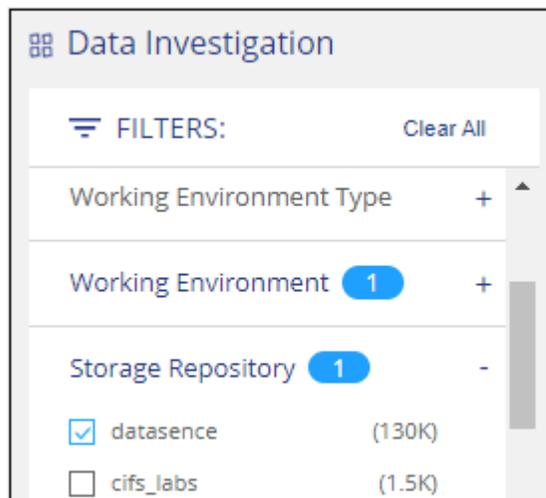
- ファイルをコピーして同期するには、アカウント管理者またはワークスペース管理者の役割が必要です。
- 少なくとも20個のファイルを選択する必要があります。

- 選択したファイルはすべて、同じソースリポジトリ（ONTAP ボリューム、S3 バケット、NFS 共有、CIFS 共有など）にある必要があります。
- BlueXPのコピーおよび同期サービスをアクティブ化し、ソースシステムとターゲットシステム間でファイルを転送するためのデータブローカーを少なくとも1つ設定する必要があります。から、BlueXPのコピーと同期の要件を確認します ["Quick Start 概要 の略"](#)。

BlueXPのコピーおよび同期サービスでは、同期関係ごとにサービス料金が別途発生します。データブローカーをクラウドに導入した場合はリソース料金が発生します。

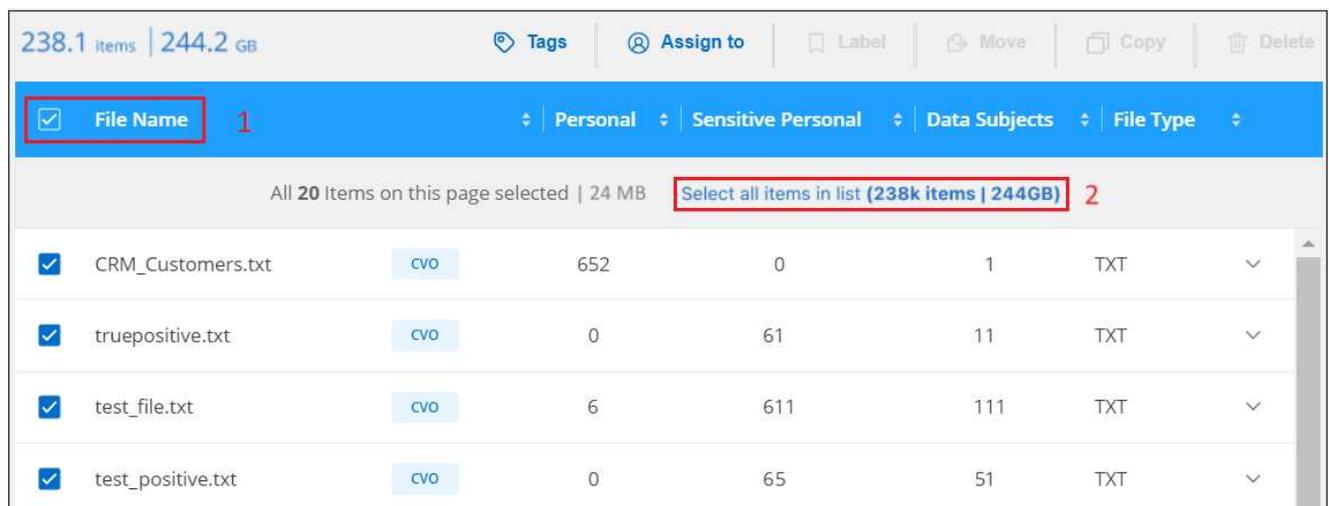
手順

1. [データの調査] ペインで、1つの * 作業環境 * と1つの * ストレージリポジトリ * を選択してフィルタを作成し、すべてのファイルが同じリポジトリにあることを確認します。



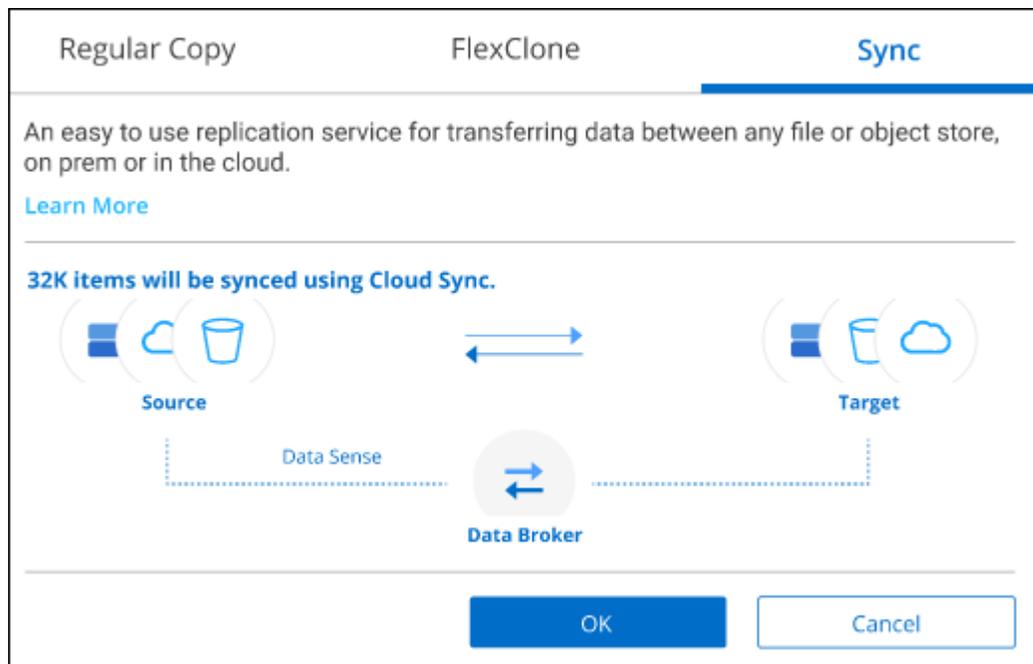
他のフィルタを適用して、コピー先システムに同期するファイルだけが表示されるようにします。

2. [調査結果] ウィンドウ枠で、タイトル行のボックスをオンにして、すべてのページのすべてのファイルを選択します（ **File Name**）をクリックし、ポップアップメッセージに入力します
[All 20 Items on this page selected](#) [Select all Items in list \(63K Items\)](#) [リスト内のすべての項目を選択（* xxx 項目）]
 をクリックし、[* コピー *] をクリックします。



ページからコピーするファイルを選択する方法と、[コピー] ボタンを示すスクリーンショット。"]

3. _ファイルのコピー_ ダイアログで * 同期 * タブを選択します。



ダイアログを示すス

クリーンショットで、[同期] オプションを選択できます。"]

4. 選択したファイルを保存先に同期してもよい場合は、「* OK *」をクリックします。

BlueXPのコピーと同期のUIがBlueXPで開きます。

同期関係を定義するよう求められます。ソースシステムには、BlueXPの分類で選択したリポジトリとファイルがあらかじめ設定されています。

5. ターゲットシステムを選択し、使用するデータブローカーを選択（または作成）する必要があります。から、BlueXPのコピーと同期の要件を確認します "[Quick Start 概要 の略](#)"。

結果

ファイルはターゲットシステムにコピーされ、定義したスケジュールに基づいて同期されます。1 回限りの同期を選択した場合、ファイルは 1 回だけコピーされ、同期されます。定期的な同期を選択した場合は、スケジュールに基づいてファイルが同期されます。フィルタを使用して作成したクエリに一致する新しいファイルがソースシステムによって追加されると、これらの `_new_files` がコピー先にコピーされ、後で同期されることに注意してください。

BlueXPの分類から起動すると、通常のBlueXPのコピー処理と同期処理の一部が無効になることに注意してください。

- 「ソース上のファイルを削除」または「ターゲット上のファイルを削除」ボタンは使用できません。
- レポートの実行が無効になっています。

ソースファイルをNFS共有に移動する

BlueXP分類でスキャンするソースファイルを任意のNFS共有に移動できます。NFS共有をBlueXPの分類と統合する必要はありません。

必要に応じて、移動したファイルの場所にブレッドクラムファイルを残すことができます。ブレッドクラムフ

ファイルは、ファイルが元の場所から移動された理由をユーザーが理解するのに役立ちます。移動された各ファイルについて、システムは「<filename>-ブレッドクラム-<date>.txt」という名前のソース位置にブレッドクラムファイルを作成します。ダイアログボックスで、ブレッドクラムファイルに追加されるテキストを追加して、ファイルが移動された場所とファイルを移動したユーザーを示すことができます。

ソースファイルのサブディレクトリ構造は、ファイルの移動時に移動先の共有に再作成されるため、ファイルの移動元がわかりやすくなります。同じ名前のファイルがコピー先に存在する場合、そのファイルは移動されません。



データベースに存在するファイルは移動できません。

要件

- ファイルを移動するには、アカウント管理者またはワークスペース管理者の役割が必要です。
- ソースファイルは、オンプレミスのONTAP、Cloud Volumes ONTAP、Azure NetApp Files、ファイル共有、SharePoint Onlineのデータソースに配置できます。
- 一度に移動できるファイルの最大数は1、500万です。
- 50 MB以下のファイルのみが移動されます。
- デスティネーションNFS共有で、BlueXP分類インスタンスのIPアドレスからのアクセスを許可する必要があります。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、移動するファイルを選択します。



ページから [移動] ボタンをクリックします。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1)。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name)。
- すべてのページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) をクリックし、ポップアップメッセージに入力します **All 20 Items on this page selected** [Select all Items in list \(63K Items\)](#) をクリックし、リスト (xxx 項目) のすべての項目を選択 * をクリックします。

2. ボタンバーで、* 移動 * をクリックします。

📁 Move Files (63)

The files will be moved to the destination folder you provide and will no longer be available at their current location.

Moving files is supported only to destination folders in NFS Shares. Any NFS Share is supported, no matter where it is hosted, as long as the share's export policy allows access from the data connector instance IP address.

The status of this action will appear in the Action Status.

Enter the NFS destination folder path to continue

Hostname:/SHAREPATH

Leave breadcrumb

A breadcrumb file helps your users understand why a file was moved from its original location. For each moved file, the system creates a breadcrumb file in the source location named `<filename>-breadcrumb-<date>.txt`.

Enter the content of your breadcrumb

📘 Max length should be maximum 400 characters

Move Files

Cancel

3. `_Move Files_Dialog`に、選択したすべてのファイルを移動するNFS共有の名前を「`<host_name> : /<share_path>`」の形式で入力します。
4. ブレッドクラムファイルを残す場合は、`_ブレッドクラム履歴_`ボックスをオンにします。ダイアログボックスにテキストを入力して、ファイルが移動された場所、ファイルを移動したユーザー、およびファイルが移動された理由などのその他の情報を指定できます。
5. 「ファイルの移動」をクリックします。

ファイルのメタデータの詳細を表示するときに、個々のファイルを移動することもできます。「* ファイルを移動 *」をクリックします。



ページのファイルのメタデータ詳細から [ファイルの移動] ボタンを選択したことを示すスクリーンショット。"]

ソースファイルを削除します

ストレージ・システムに残すのに安全でない'またはリスクが高すぎるソース・ファイルを完全に削除したり'重複として識別したソース・ファイルを削除したりすることができますこの操作は永続的であり、元に戻すことも復元することもできません。

[調査] ペインから手動でファイルを削除することも、手動でファイルを削除することもできます "[ポリシーを使用して自動的に作成](#)".



データベースに存在するファイルは削除できません。その他のすべてのデータソースがサポートされます。

ファイルを削除するには、次の権限が必要です。

- NFSデータの場合-書き込み権限でエクスポートポリシーを定義する必要があります。
- CIFSデータの場合- CIFSクレデンシャルに書き込み権限が必要です。
- S3 データの場合 - IAM ロールに次の権限を含める必要があります。「3 : DeleteObject」

ソースファイルを手動で削除する

要件

- ファイルを削除するには、アカウント管理者またはワークスペース管理者の役割が必要です。
- 一度に削除できるファイルの最大数は 100、000 です。

手順

1. [データ調査結果] ペインで、削除するファイルを選択します。



ページの [削除] ボタン。"]

- 個々のファイルを選択するには、各ファイル (Volume_1) 。
- 現在のページのすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) 。
- すべてのページすべてのファイルを選択するには、タイトル行 (File Name) をクリックし、ポップアップメッセージに入力します All 20 Items on this page selected Select all Items in list (63K Items) をクリックし、リスト (xxx 項目) のすべての項目を選択 * をクリックします。

2. ボタンバーで、 * 削除 * をクリックします。

3. 削除操作は永続的であるため ' 後続の _Delete File_Dialog に 「 * permanently delete * 」 と入力し ' * ファイルの削除 * をクリックする必要があります

削除処理の進捗状況は確認できます "[アクションステータス (Actions Status) パネル]"。

ファイルのメタデータの詳細を表示するときに、個々のファイルを削除することもできます。 [ファイルの削除] をクリックします。



ページのファイルのメタデータ詳細から [ファイルの削除] ボタンを選択したことを示すスクリーンショット。"]

BlueXPの分類スキャンに個人データ識別子を追加

BlueXPの分類では、今後のスキャンでBlueXPの分類によって特定される「個人データ」のカスタムリストを追加するためのさまざまな方法が用意されています。これにより、機密性の高いデータが_all_組織のファイル内のどこにあるかを全体的に把握できます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

- スキャンするデータベース内の特定の列に基づいて一意の識別子を追加できます。
- テキストファイルからカスタムキーワードを追加できます。これらの単語はデータ内で識別されます。
- 正規表現 (regex) を使用してパーソナルパターンを追加できます。既存の定義済みパターンに正規表現が追加されます。
- カスタムカテゴリを追加して、データ内の特定のカテゴリの情報を特定できます。

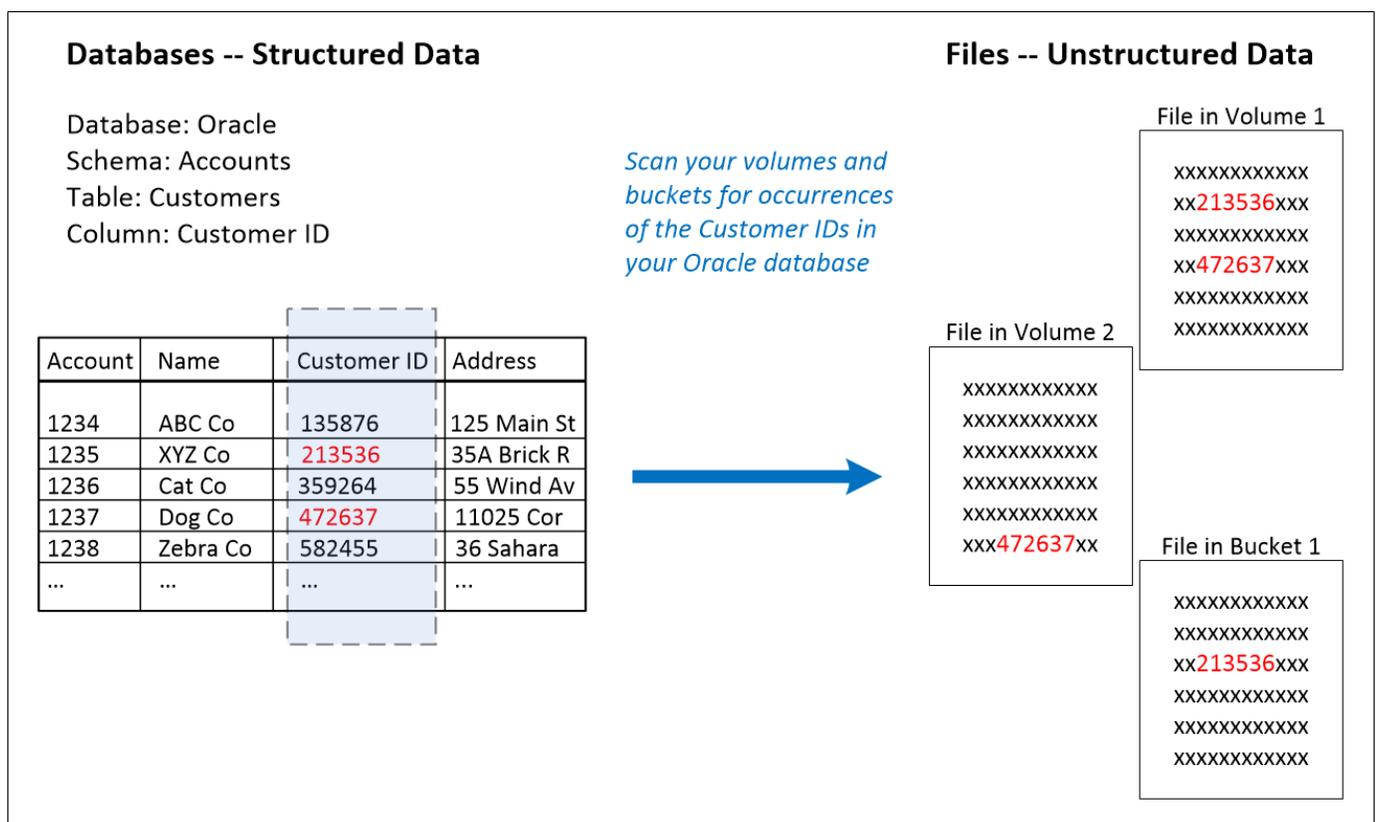
カスタムスキャン条件を追加するこれらのメカニズムはすべて、すべての言語でサポートされています。



このセクションで説明する機能は、データソースに対して完全な分類スキャンを実行することを選択した場合にのみ使用できます。マッピングのみのスキャンを実行したデータソースでは、ファイルレベルの詳細は表示されません。

データベースからカスタムの個人データ識別子を追加します

Data Fusion _という機能を使用すると、組織のデータをスキャンして、データベースからの一意の識別子が他のいずれかのデータソースに存在するかどうかを確認できます。データベーステーブルで特定の列を選択することで、BlueXPのスキャンで検索される追加の識別子を選択できます。たとえば、次の図は、Data Fusion を使用してボリューム、バケット、およびデータベースをスキャンし、Oracle データベースからすべての顧客 ID が出現する状況を示しています。



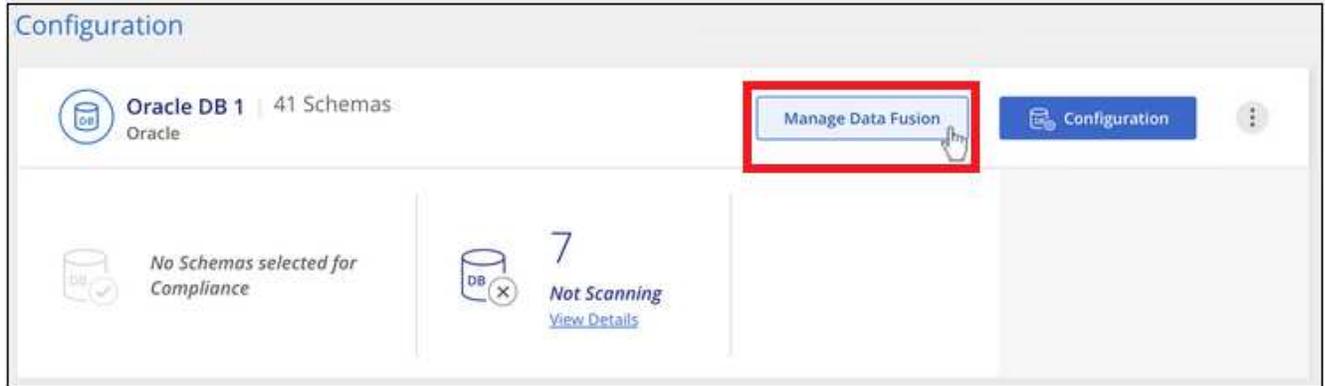
このように、2つのボリュームと1つのS3バケットにそれぞれ一意の顧客IDが見つかりました。データベーステーブル内の一致も識別されます。

独自のデータベースをスキャンするため、データが保存されている言語に関係なく、今後のBlueXP分類スキャンでデータを識別するために使用されることに注意してください。

手順

が必要です "データベースサーバを少なくとも 1 つ追加しました" データ Fusion ソースを追加する前に、をBlueXPの分類に追加する必要があります。

1. [構成] ページで、ソースデータが存在するデータベースの [データ Fusion の管理] をクリックします。



ボタンを選択するスクリーンショット。"]

2. 次のページで [Add Data Fusion source*] をクリックします。
3. [Add Data Fusion Source_] ページで、次の手順を実行します。
 - a. ドロップダウンメニューからデータベーススキーマを選択します。
 - b. そのスキーマにテーブル名を入力します。
 - c. 使用する一意の識別子を含む列を入力します。

複数の列を追加する場合は、各列名またはテーブルビュー名を別々の行に入力します。

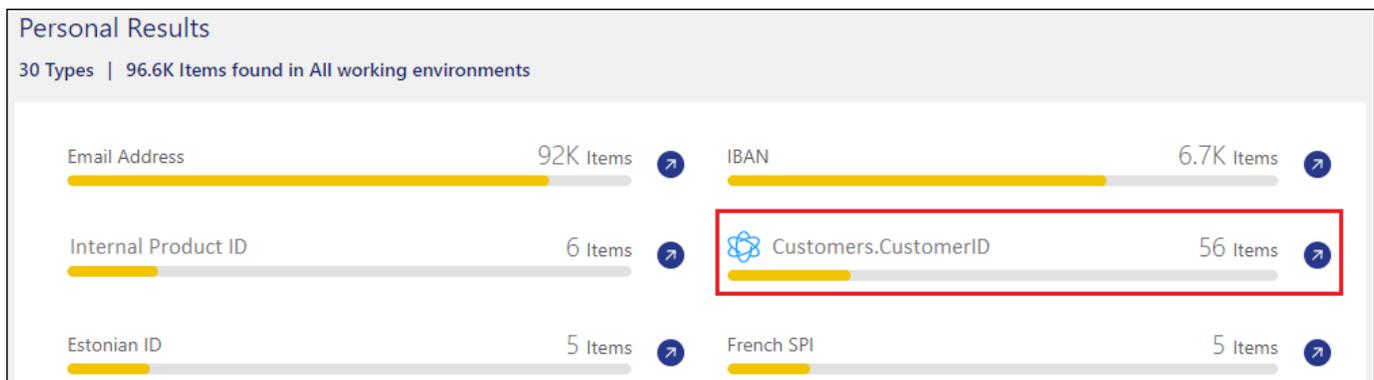
A screenshot of the 'Add Data Fusion Source' form. The form has a title 'Add Data Fusion Source' and a descriptive paragraph: 'To add a Data Fusion source reference, specify one or more columns which contain your organization's unique identifiers, such as a column used to store customer IDs. Note that adding a Data Fusion Source will initiate an additional scan of your data stores.' Below the text are three input fields: 'Database Schema' with the value 'Oracle1,Accounts', 'Table' with the value 'Customers', and 'Columns Containing Identifiers' with the value 'Customer ID'. At the bottom of the form are two buttons: 'Add Data Fusion Source' and 'Cancel'.

4. [Add Data Fusion Source*] をクリックします。

Database Schema	Table	Data Fusion Source Columns	
Schema1	Table 1	Column 12, Column 4, Column 18	...
Schema2	Table 2	Column 2, Column 14, Column 8	...

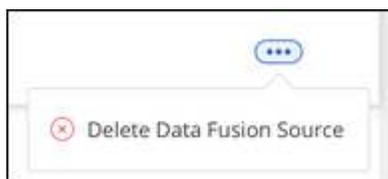
結果

次のスキャンの後、この新しい情報は、[個人の結果] セクションの [コンプライアンスダッシュボード] と [個人データ] フィルタの [調査] ページに表示されます。分類子に使用した名前がフィルタリストに表示されます。例：Customers.CustomerID。



Data Fusion ソースを削除します

特定の Data Fusion ソースを使用してファイルをスキャンしない場合は、Data Fusion インベントリページからソース行を選択し、[* データ Fusion ソースの削除*] をクリックします。



単語のリストからカスタムキーワードを追加します

BlueXPの分類にカスタムキーワードを追加すると、その情報がデータ内のどこにあるかがわかるようになります。キーワードを追加するには、BlueXPの分類で認識したい単語を1つずつ入力します。これらのキーワードは、BlueXPの分類ですでに使用されている定義済みの既存のキーワードに追加され、結果は個人のパターンセクションに表示されます。

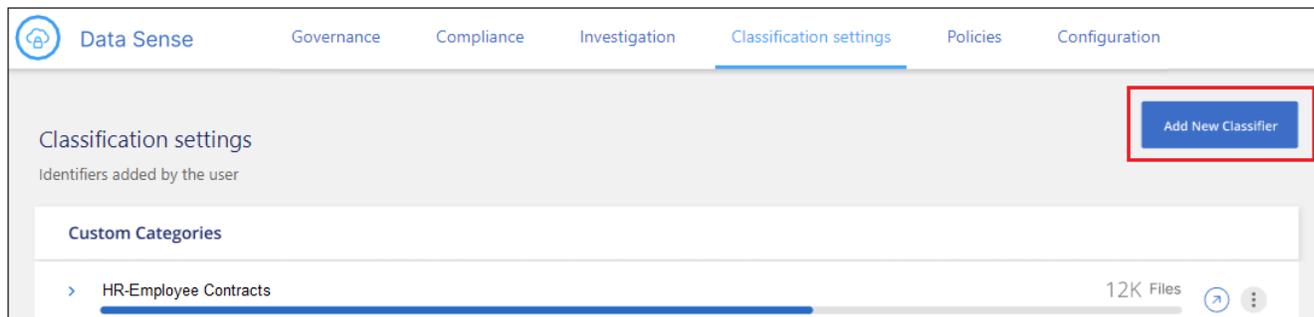
たとえば、すべてのファイルで内部製品名が言及されている場所を確認して、これらの名前が安全でない場所でアクセスできないようにすることができます。

カスタムキーワードを更新すると、BlueXP分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。

スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[Personal Results]セクションと[Investigation]ページの[Personal Data]フィルタに新しい結果が表示されます。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [タイプの選択]ページで、分類子の名前を入力し、短い概要を入力して、[Personal identifier]を選択し、[次へ*]をクリックします。

入力した名前は、BlueXP分類UIに分類子の要件に一致するスキャン済みファイルの見出しとして表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。

また、「システムで検出された結果をマスク」のチェックボックスをオンにして、UIに完全な結果が表示されないようにすることもできます。たとえば、クレジットカード番号や類似の個人データを完全に非表示にする場合があります(マスクは次のようにUIに表示されます:"*****" 3434)。

1 Select type 2 Select tool 3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Internal Product Names

Description

Identify internal product names found in all files

Personal identifier

The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)

Mask detected results in the system

Category

The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous Next

3. [データ分析ツールの選択]ページで、分類子の定義に使用する方法として*を選択し、[次へ]*をクリックします。

Select Data Analysis Tool

Select the tool that will be used to build the list of words, or patterns, that Data Sense will attempt to match in your data sources.

Custom keywords ⓘ
Create a custom personal pattern based on a list of keywords that you provide.

Custom regular expression ⓘ
Create a custom personal pattern based on a regular expression that you define.

DB fusion ⓘ
Create a custom personal pattern based on the values found in specific columns in your scanned database tables. This allows you to identify whether unique identifiers from your databases are found in any of your other data sources.

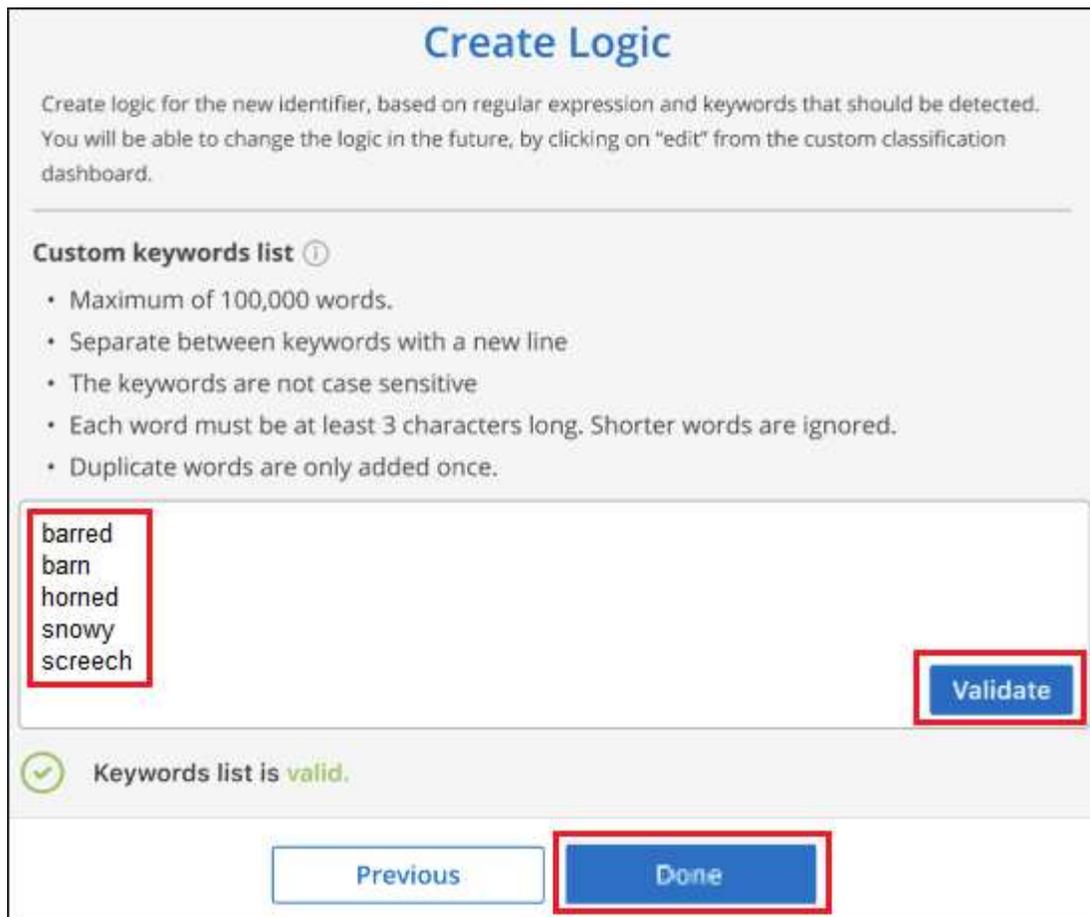
[Previous](#) [Next](#)

を選択した

スクリーンショット。"]

4. [Create Logic]ページで、認識するキーワード（各単語を別々の行に入力）を入力し、*[Validate]*をクリックします。

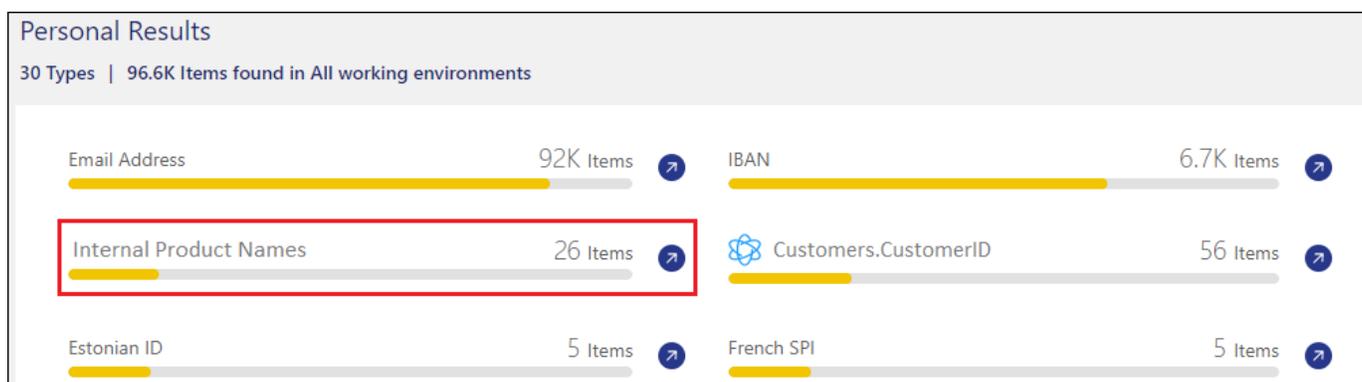
下のスクリーンショットは、内部の製品名(さまざまな種類のフクロウ)を示しています。これらの項目に対するBlueXPの分類検索では、大文字と小文字は区別されません。



5. [完了]*をクリックすると、BlueXPの分類によってデータの再スキャンが開始されます。

結果

スキャンが完了すると、コンプライアンスダッシュボードの[個人結果]セクションと[個人データ]フィルタの[調査]ページに、この新しい情報が結果に含まれます。



ペインにカスタムキーワードの結果の例を示すスクリーンショット。"]

ご覧のように、分類子の名前が個人結果パネルの名前として使用されます。このようにして、さまざまなキーワードグループをアクティブ化し、各グループの結果を表示できます。

正規表現を使用してカスタムの個人データ識別子を追加する

カスタム正規表現 (regex) を使用して、データ内の特定の情報を識別するためのパーソナルパターンを追加

できます。これにより、新しいカスタム正規表現を作成して、システムにまだ存在しない新しい個人情報要素を特定できます。正規表現は、BlueXPの分類ですでに使用されている既存の定義済みパターンに追加され、結果は[Personal Patterns]セクションに表示されます。

たとえば、すべてのファイルで内部製品IDが記載されている場所を確認できます。製品IDに明確な構造が含まれている場合、たとえば、201で始まる12桁の数値であれば、カスタム正規表現機能を使用してファイル内で検索できます。この例の正規表現は*\b201\d {9} \b*です。

正規表現を追加すると、BlueXPの分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[Personal Results]セクションと[Investigation]ページの[Personal Data]フィルタに新しい結果が表示されます。

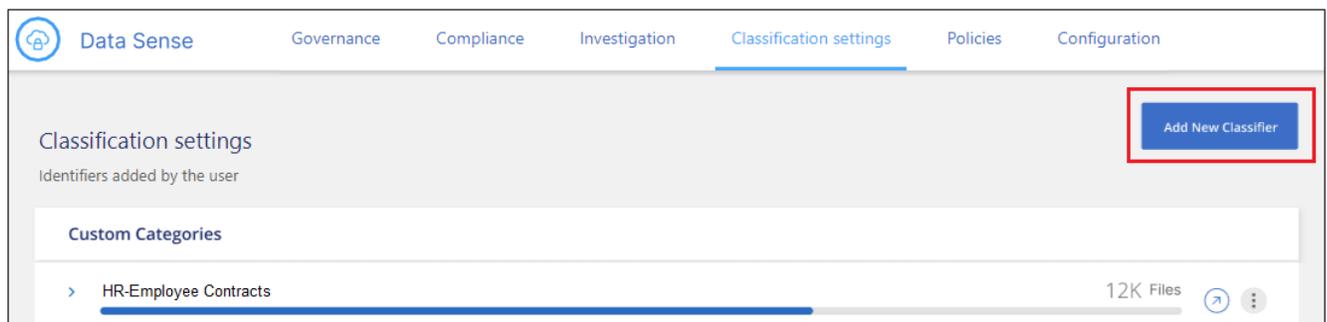
正規表現の作成についてサポートが必要な場合は、を参照してください。 ["正規表現101"](#)。フレーバーに「*Python*」を選択すると、BlueXPの分類が正規表現と一致する結果のタイプが表示されます。。 ["Python Regex Testerページ"](#) パターンをグラフィカルに表示することもできます。



現在、正規表現を作成するときにパターンフラグを使用することは許可されていません。これは、"/"を使用しないことを意味します。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [タイプの選択]ページで、分類子の名前を入力し、短い概要を入力して、[Personal identifier]を選択し、[次へ*]をクリックします。

入力した名前は、BlueXP分類UIに分類子の要件に一致するスキャン済みファイルの見出しとして表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。また、「システムで検出された結果をマスク」のチェックボックスをオンにして、UIに完全な結果が表示されないようにすることもできます。たとえば、クレジットカード番号全体または類似の個人データを非表示にする場合などです。

1 Select type 2 Select tool 3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Internal Product ID

Description

Identify internal product IDs found in all files

Personal identifier

The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)

Mask detected results in the system

Category

The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous Next

3. [データ分析ツールの選択]ページで、分類子の定義に使用するメソッドとして[カスタム正規表現*]を選択し、[次へ*]をクリックします。

Select Data Analysis Tool

Select the tool that will be used to build the list of words, or patterns, that Data Sense will attempt to match in your data sources.

Custom keywords ⓘ
Create a custom personal pattern based on a list of keywords that you provide.

Custom regular expression ⓘ
Create a custom personal pattern based on a regular expression that you define.

DB fusion ⓘ
Create a custom personal pattern based on the values found in specific columns in your scanned database tables. This allows you to identify whether unique identifiers from your databases are found in any of your other data sources.

[Previous](#) [Next](#)

が選択され

ていることを示すスクリーンショット。"]

4. Create Logic_pageで、正規表現と近接文字を入力し、* Done *をクリックします。
 - a. 正規表現は任意に入力できます。[検証]*ボタンをクリックして、BlueXPで正規表現が有効かどうか、また正規表現が広すぎないかどうか（返される結果が多すぎないかどうか）が検証されます。
 - b. 必要に応じて、近接キーワードを入力して結果の精度を高めることができます。検索対象のパターンの300文字以内（検出されたパターンの前または後）に検索されるのが一般的な単語です。単語またはフレーズをそれぞれ別の行に入力します。

Create Logic

Create logic for the new identifier, based on regular expression and keywords that should be detected.

Regular expression ⓘ

Add the pattern that should be detected to identify specific information in your data, using a custom regular expression.

Validate

✔ **Success:** Regular expression is valid.

Proximity words - To improve the detection accuracy, insert phrases that must appear near by the regular expression's match.

Previous
Done

結果

分類子が追加され、BlueXPの分類によってすべてのデータソースの再スキャンが開始されます。カスタム分類子ページに戻り新しい分類子に一致するファイルの数を確認できますすべてのデータソースをスキャンした結果は、スキャンする必要があるファイルの数によってはしばらく時間がかかります。

🏠 Data Sense
Governance
Compliance
Investigation
Classification settings
Policies
Configuration

Classification settings

Add New Classifier

Identifiers added by the user

Custom Categories

> HR - Employee Contracts
7.5K Files
⌵ ⋮

Personal information

> Internal Product ID
12K Files
⌵ ⋮

カスタムカテゴリを追加します

BlueXPは、スキャンしたデータをさまざまなカテゴリに分類して分類します。カテゴリは、各ファイルのコンテンツとメタデータの人工知能分析に基づくトピックです。"事前定義されたカテゴリのリストを参照して

ください”。

カテゴリを使用すると、保有している情報の種類を表示して、データの状況を把握することができます。たとえば、_resumes_or_employee_contracts_のようなカテゴリには、機密データが含まれている場合があります。結果を調査すると、従業員契約が安全でない場所に保存されていることがわかります。その後、その問題を修正できます。

BlueXPの分類にカスタムカテゴリを追加すると、データ資産に固有の情報のカテゴリがデータのどこにあるかを特定できます。特定するデータのカテゴリを含む「トレーニング」ファイルを作成して各カテゴリを追加し、BlueXPの分類でそれらのファイルをスキャンしてAIで「学習」し、データソース内のそのデータを識別できるようにします。これらのカテゴリは、BlueXPの分類ですでに識別されている既存の事前定義されたカテゴリに追加され、[カテゴリ]セクションに結果が表示されます。

たとえば、必要に応じて削除できるように、.gz形式の圧縮インストールファイルがファイル内のどこにあるかを確認することができます。

カスタムカテゴリを更新すると、BlueXPの分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[カテゴリ]セクションと[カテゴリ]フィルタの[調査]ページに新しい結果が表示されます。 ["カテゴリ別にファイルを表示する方法を参照してください"](#)。

必要なもの

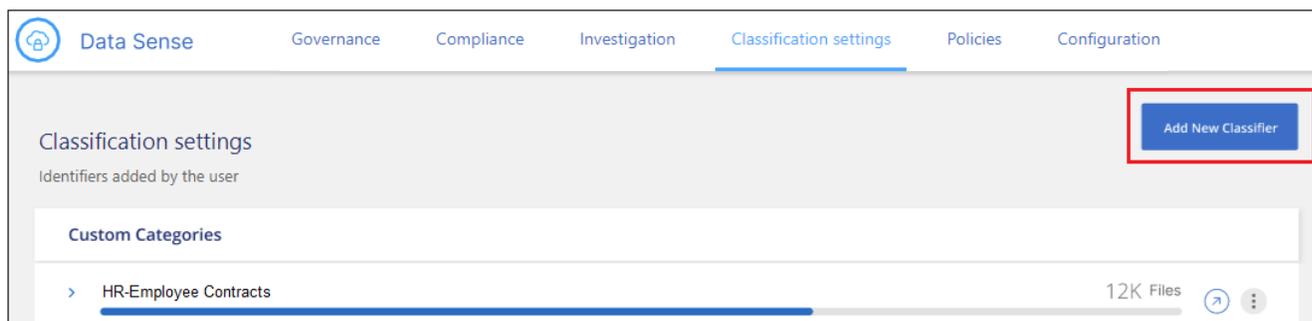
BlueXPの分類で認識するデータカテゴリのサンプルを含むトレーニングファイルを少なくとも25個作成する必要があります。次のファイルタイプがサポートされています。

.CSV, .DOC, .DOCX, .GZ, .JSON, .PDF, .PPTX, .RTF, .TXT, .XLS, .XLSX, Docs, Sheets, and Slides

ファイルは100バイト以上である必要があり、BlueXPの分類でアクセスできるフォルダに配置されている必要があります。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [Select type]ページで、分類子の名前を入力し、簡単な概要を入力して*を選択し、[Next]*をクリックします。

入力した名前が、定義しているデータのカテゴリに一致するスキャン済みファイルの見出しとしてBlueXP分類UIに表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。

1 Select type 2 Select tool 3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Compressed installer files

Description

Installation files in .GZ format

Personal identifier

The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)

Mask detected results in the system

Category

The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous Next

3. [Create Logic]ページで、学習ファイルが準備されていることを確認し、*[ファイルの選択]*をクリックします。

Create Logic

AI-based similarity training ⓘ

- Insert NFS folder path
- The folder should contain minimum 25 files and maximum 1000 files that will be used for the AI training.
- Supported file types: pdf, docx, doc, pptx, xls,xlsx, csv, txt, gz, rtf, docs, sheets, slides, json
- The keywords are not case sensitive
- Minimum file size: 100B

Compressed Installer files

Select Files

ページのスクリーンショット。BlueXPの分類に使用するデータを含むファイルを追加します。"]

4. ボリュームのIPアドレスとトレーニングファイルが格納されているパスを入力し、*[追加]*をクリックしま

す。

Insert folder path that contains at least 25 files for the training

Enter the IP address and volume name, along with the path to the location of the training files.

IP:

Training Data - Folder path:

5. トレーニングファイルがBlueXPの分類で認識されたことを確認します。要件を満たしていないトレーニングファイルを削除するには、* x *をクリックします。[完了]*をクリックします。

Create Logic

AI-based similarity training

- Insert NFS folder path
- The folder should contain minimum 25 files and maximum 1000 files that will be used for the AI training.
- Supported file types: pdf, docx, doc, pptx, xls, xlsx, csv, txt, gz, rtf, docs, sheets, slides, json
- The keywords are not case sensitive
- Minimum file size: 100B

Compressed Installer files

Total uploaded files: 54

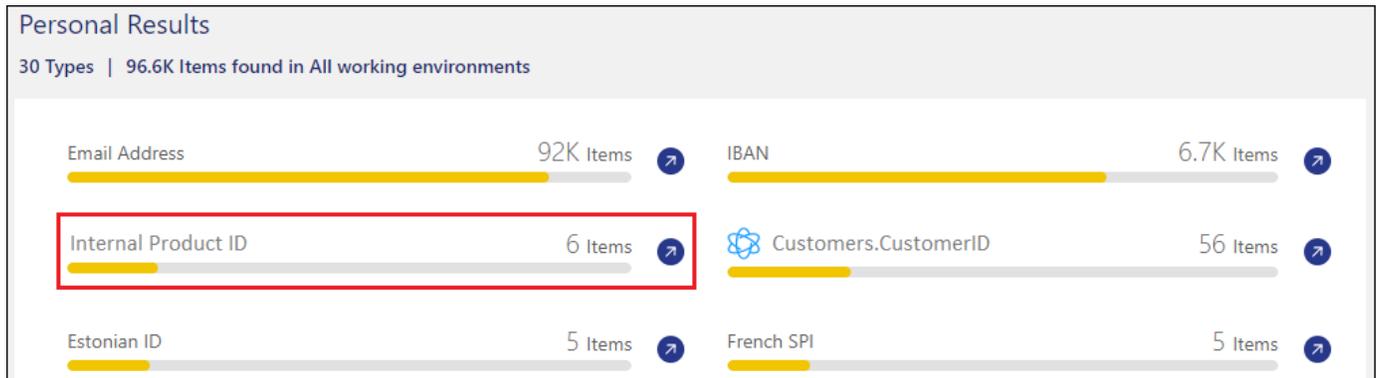
File name	File Size	File Type	Reliability	included in training
File1	56	File type	Sufficient	x
File2	22	File type	Sufficient	x
File3	43	File type	Sufficient	x
File4	11	File type	Sufficient	x

結果

トレーニングファイルの定義に従って新しいカテゴリが作成され、BlueXPの分類に追加されます。その後、BlueXPで分類が開始され、すべてのデータソースが再スキャンされて、この新しいカテゴリに該当するファイルが特定されます。[Custom Classifiers]ページに戻り、新しいカテゴリに一致するファイルの数を確認できます。すべてのデータソースをスキャンした結果は、スキャンする必要があるファイルの数によってはしばらく時間がかかります。

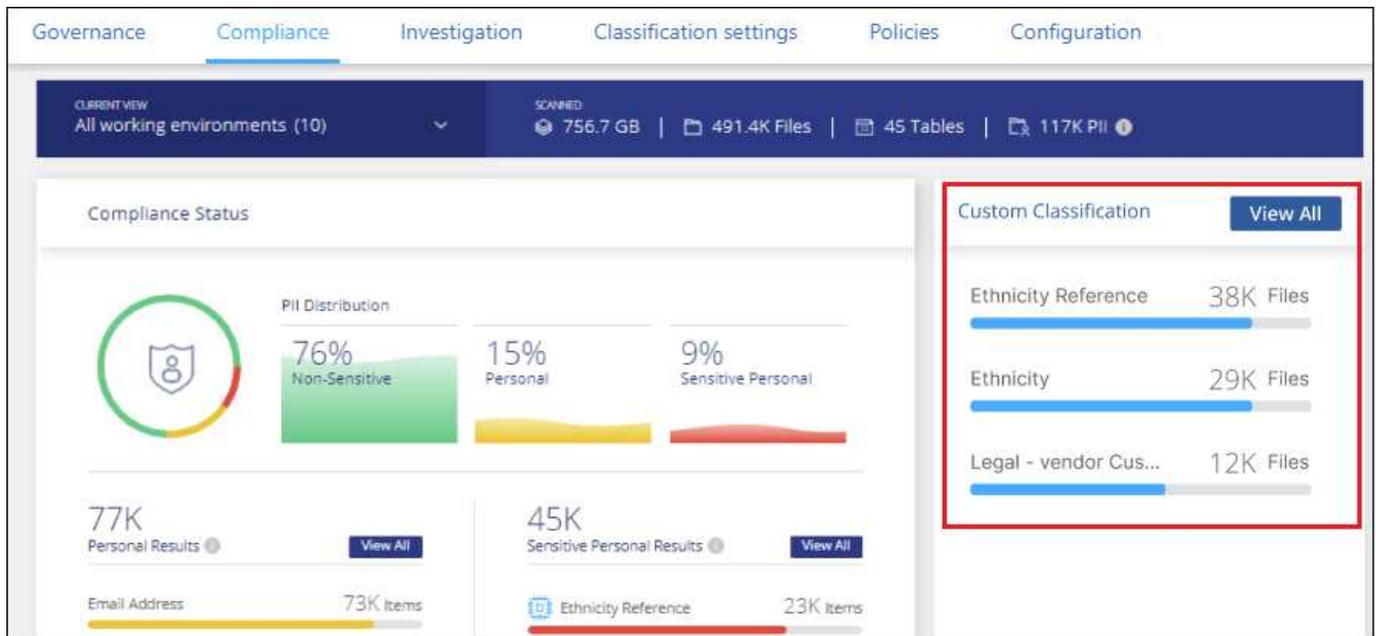
カスタム分類子の結果を表示します

コンプライアンスダッシュボードおよび「調査」ページで、任意のカスタム分類子の結果を表示できます。たとえば、このスクリーンショットは、「個人の結果」セクションの下のコンプライアンスダッシュボードに表示されている、一致した情報を示しています。



をクリックします  ボタンをクリックすると、詳細な結果が[調査]ページに表示されます。

さらに、カスタム分類子の結果はすべて[カスタム分類子]タブに表示され、上位6つのカスタム分類子の結果が[コンプライアンスダッシュボード]に表示されます。



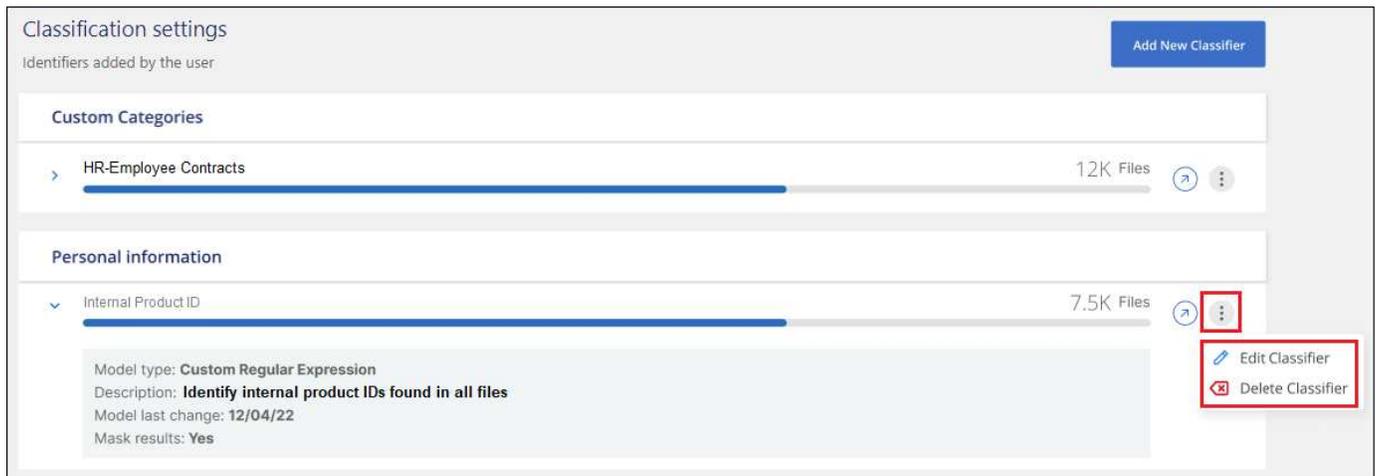
カスタム分類子を管理します

作成したカスタム分類子は、*Edit Classifier*ボタンを使用して変更できます。



現時点では、Data Fusion分類子を編集することはできません。

あとで、追加したカスタムパターンをBlueXPの分類で特定する必要がないと判断した場合は、*[Delete Classifier]*ボタンを使用して各項目を削除できます。



ページのスクリーンショット。"]

コンプライアンスアクションのステータスを表示します

100個のファイルの移動や削除など、多くのファイルで [調査結果] ペインから非同期アクションを実行する場合は、このプロセスに時間がかかることがあります。これらのアクションのステータスは、_Action Status_Paneで監視できるので、すべてのファイルにいつ適用されたかを知ることができます。

これにより、正常に完了した操作、現在実行中の操作、および失敗した操作を確認できるため、問題を診断して修正できます。単一ファイルの移動など、短時間で完了する短時間の処理は、[操作][ステータス]ペインには表示されません。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

ステータスは次のいずれかになります。

- 成功- BlueXPの分類アクションが完了し、すべての項目が成功しました。
- 部分的に成功- BlueXPの分類処理が完了し、一部の項目が失敗して一部が成功しました。
- In Progress -処理はまだ実行中です。
- Queued -処理が開始されていません。
- Cancelled -処理はキャンセルされました。
- failed -処理に失敗しました。

ステータスが「Queued」または「In Progress」のアクションはすべてキャンセルできます。

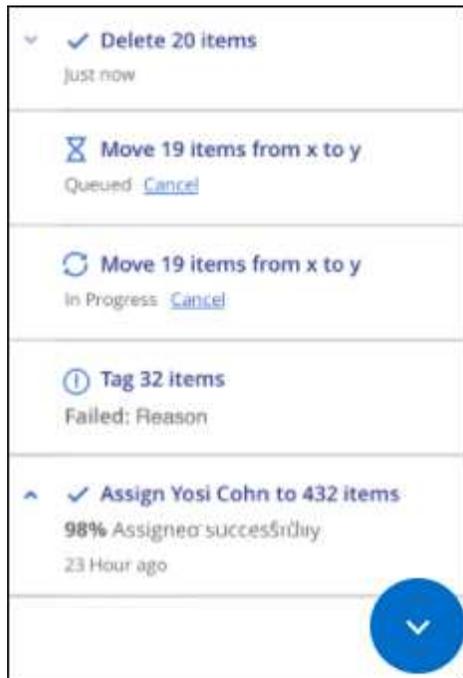
手順

1.

BlueXP分類UIの右下には、[操作][ステータス]*ボタンが表示されます。



2. このボタンをクリックすると、最新の 20 件のアクションが表示されます。



アクションの名前をクリックすると、その操作に対応する詳細を表示できます。

BlueXPの分類アクションの履歴を監査します

BlueXPの分類では、BlueXPの分類でスキャンするすべての作業環境とデータソースのファイルに対して実行された管理アクティビティがログに記録されます。BlueXPの分類では、BlueXP分類インスタンスを導入する際のアクティビティも記録されます。

BlueXP分類監査ログファイルの内容を表示したり、ファイルをダウンロードして、どのファイルが変更されたか、いつ変更されたかを確認したりできます。たとえば、発行された要求、要求の時刻、ファイルが削除された場合のソースの場所、ファイルが移動された場合のソースとデスティネーションの場所などの詳細を確認できます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

ログファイルの内容

監査ログの各行には、次の形式で情報が表示されます。

```
<full date> | <status> | ds_audit_logger | <module> | 0 | 0 | File <full file path> deleted from device <device path> - <result>
```

- 日付と時刻-イベントの完全なタイムスタンプ
- Status -情報、警告
- アクションタイプ (削除、コピー、移動、ポリシーの作成、ポリシーの更新、ファイルの再スキャン、JSONレポートのダウンロードなど)
- ファイル名 (ファイルに関連するアクションの場合)

- アクションの詳細-何が行われたか：アクションによって異なります
 - ポリシー名
 - 移動元と移動先のデータ用
 - コピー元およびコピー先の場合
 - tag-tag nameを指定します
 - をクリックします
 - Eメールアラートの場合- Eメールアドレス/アカウント

たとえば、ログファイルの次の行は、コピー処理が成功し、コピー処理が失敗した場合を示しています。

```
2022-06-06 15:23:08,910 | INFO | ds_audit_logger | es_scanned_file | 237 | 49 | Copy file /CIFS_share/data/dopl/random_positives.tsv from device 10.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device 10.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - SUCCESS
2022-06-06 15:23:08,968 | WARNING | ds_audit_logger | es_scanned_file | 239 | 153 | Copy file /CIFS_share/data/compliance-netapp.tar.gz from device 10.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device 10.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - FAILURE
```

ログファイルの場所

管理監査ログファイルは、BlueXP分類マシンの次の場所にあります。 /opt/netapp/audit_logs/

インストール監査ログファイルがに書き込まれます /opt/netapp/install_logs/

各ログファイルのサイズは最大で10MBです。この制限に達すると、新しいログファイルが開始されます。ログファイルの名前は「DataSense_audit.log」、「DataSense_audit.log.1」、「DataSense_audit.log.2」などです。システムに保持されるログファイルの最大数は100です。古いログファイルは、最大数に達すると自動的に削除されます。

ログファイルへのアクセス

ログファイルにアクセスするには、BlueXP分類システムにログインする必要があります。方法を参照してください "[BlueXP分類システムにログインする](#)" ソフトウェアを手動でLinuxマシンにインストールしたか、インスタンスをクラウドに導入したかによって異なります。

BlueXPの分類スキャン速度が低下します

データスキャンは、ストレージシステムとデータにほとんど影響を与えません。ただし、影響がごくわずかであっても問題が発生する場合は、「低速」スキャンを実行するようにBlueXPの分類を設定できます。

有効にすると、すべてのデータソースで低速スキャンが使用されます。1つの作業環境またはデータソースで低速スキャンを設定することはできません。

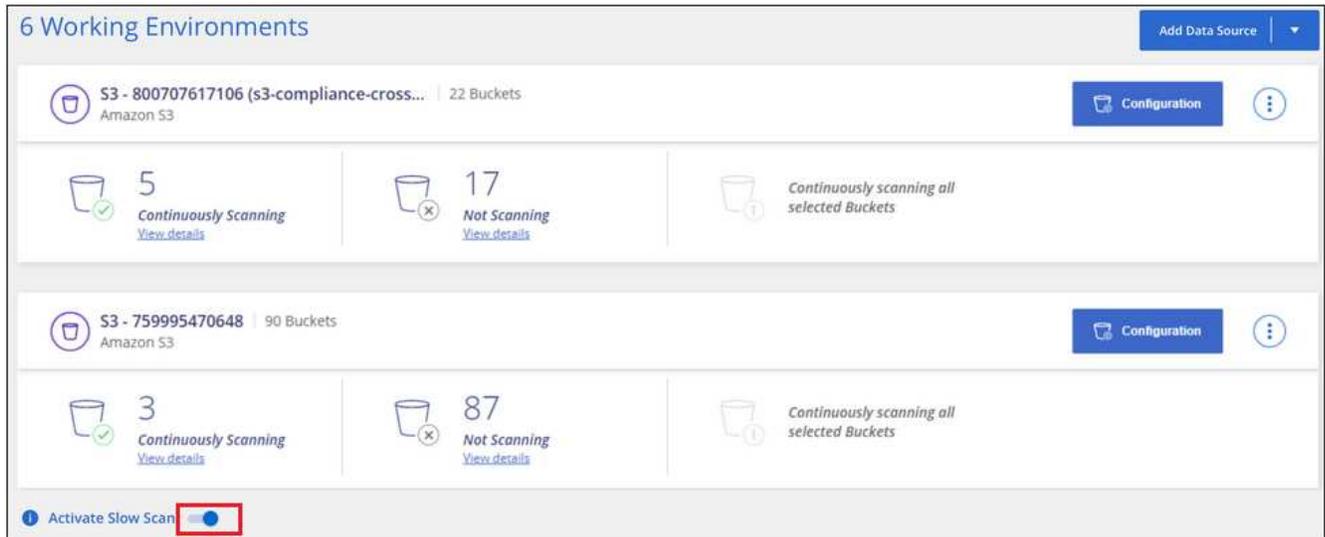


データベースのスキャン中は、スキャン速度を下げることはできません。

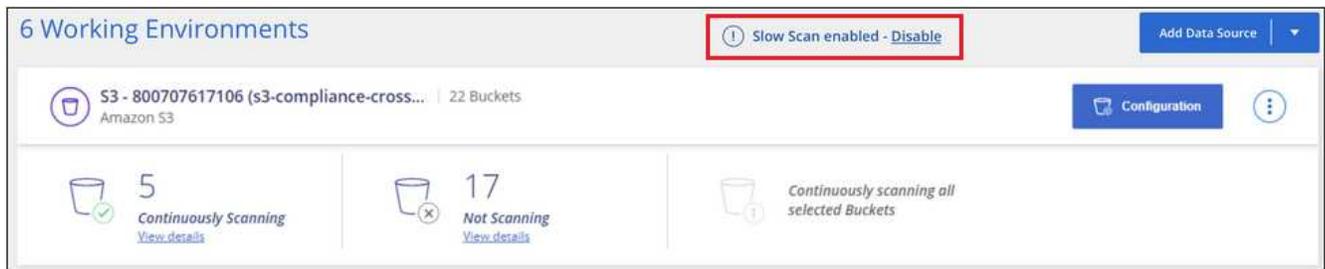
*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

手順

1. `_Configuration_page` の下部から、スライダを右に動かして低速スキャンを有効にします。



設定ページの上には、低速スキャンが有効になっていることが示されます。



2. このメッセージの *無効* をクリックすると、低速スキャンを無効にできます。

BlueXPの分類からOneDrive、SharePoint、Google Driveのアカウントを削除する

特定のOneDriveアカウント、特定のSharePointアカウント、またはGoogle Driveアカウントからユーザファイルをスキャンする必要がなくなった場合は、BlueXP分類インターフェイスからアカウントを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

手順

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン] OneDrive、SharePoint、Google Driveアカウントの行にあるボタンをクリックし、* OneDriveアカウントの削除*、* SharePointアカウントの削除*、または* Googleドライブアカウントの削除*をクリックします。



ページから [OneDrive を削除] ボタンのスクリーンショット。"]

2. 確認ダイアログで * アカウントの削除 * をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。